

第3次浜松市子供読書活動推進計画（案）

令和4年3月

浜 松 市

出世大名 家康くん



—目次—

第1章 基本的な考え方	
1 はじめに	10
2 計画の経緯	10
3 計画の対象	11
4 計画の期間	11
第2章 子供の読書活動をめぐる動き	
1 子供の読書活動を取り巻く社会情勢の変化	14
2 子供の読書環境における施策の動向	14
3 本市の状況	16
第3章 第2次推進計画期間における子供の読書活動の現状と課題	
1 子供の読書活動に関する取組の現状	21
(1) 乳幼児期における主な取組	22
(2) 小学生期における主な取組	24
(3) 中・高校生期における主な取組	26
(4) 読書活動の基盤となる取組	28
2 本市の子供の読書活動の現状と課題	29
3 今後の方向性	34
第4章 浜松市の子供の読書活動の推進方策	
1 基本的な方向性	38
2 浜松市の目指す読書活動 ～構想図～ (目指す子供の姿)	38
3 4つの目標と取組	39
■豊かな言葉をもつ子供	40
■情報を読み解く力を身に付けた子供	42
■本を選ぶ力を身に付けた子供	44
■読書を楽しみの一つとして選ぶ子供	46
4 一人一人の読書環境を支える取組	48
5 地域、図書館、学校等の連携による子供の読書活動の推進	
(1) 市立図書館における連携	50
(2) 学校における連携	50
(3) 市立図書館と学校図書館との連携	50
6 推進・支援体制の整備等	
(1) 関係課、関連施設との連携	51
(2) 浜松市子ども読書活動推進会議の開催	51
(3) 啓発・広報等	51
【参考資料】	
・統計	54
・アンケート調査結果(概要)	55
・浜松市立図書館の所在地と連絡先	80
・浜松市子ども読書活動推進会議委員等名簿	81

第1章

基本的な考え方

1 はじめに

子供たちにとって読書は、豊かな心を育み、生きる力を高めるために欠くことのできない重要な活動です。その基盤を築くため浜松市では、平成19年1月に「浜松市子ども読書活動推進計画（第1次計画）」を策定し、子供の読書活動を取り巻く環境整備を進めてきました。また、第2次計画¹では、家庭・地域・市立図書館・学校等からの推進体制の充実を図るとともに、連携に向けて取組を充実させてきました。

しかし、近年は情報のデジタル化が急速に発展し、子供たちを取り巻く環境に大きな変化が生じています。さらに、新型コロナウイルス感染症の拡大により、子供たちの集団での学びに制限が設けられたり、新しい生活様式への転換が求められたりしました。

このような状況を経験している中で、浜松市は「第3次浜松市子供読書活動推進計画」を策定しました。変化の激しい未来を生きる子供たちにとって、また、人と会えないさみしさや、自由に行動できない苦しさを感じている子供たちにとって、読書は重要な役割を果たすことができると実感しています。だからこそ、読書活動を推進するすべての大人が一丸となり、この推進計画を基に取組を充実させていきたいと考えます。

子供の読書活動は、「子どもが、言葉を選び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものである」と「子どもの読書活動の推進に関する法律」²で述べられています。長年続けてきた取組を今一度見つめ直し、不易と流行を捉えながら、より良い読書活動の推進を図っていきます。

2 計画の経緯

この計画は、市民の子供の読書活動についての関心と理解を深め、家庭・地域・図書館・学校等の連携による取組をいっそう推進するための指針として策定しています。

【国】

- ・ 子どもの読書活動の推進に関する法律
(平成13年法律第154号)
- ・ 子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（第一次）
(平成14年8月)
- ・ 子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（第二次）
(平成20年3月)
- ・ 子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（第三次）
(平成25年5月)
- ・ 子供の読書活動の推進に関する基本的な計画（第四次）
(平成30年4月)

【県・市】

- ・ 静岡県子ども読書活動推進計画
(平成16年1月 静岡県教育委員会)
- ・ 浜松市子ども読書活動推進計画
(平成19年1月 浜松市)
- ・ 静岡県子ども読書活動推進計画（第二次計画）
(平成23年3月 静岡県教育委員会)
- ・ 第2次浜松市子ども読書活動推進計画
(平成24年3月 浜松市)
- ・ 静岡県子ども読書活動推進計画（第三次計画）
(平成30年3月 静岡県教育委員会)

¹ 「第2次浜松市子ども読書活動推進計画」(平成24年3月策定)

² 「子どもの読書活動の推進に関する法律」(平成13年法律第154号)

3 計画の対象

この計画の対象は、主に0歳からおおむね18歳までの子供とします。なお、子供の読書活動の推進にかかわる保護者をはじめ、教職員、市民ボランティア、行政担当者等も対象としています。

4 計画の期間

期間は、令和4年度から令和13年度までの10年間とし、中間年に見直しを行います。

第2章

子供の読書活動を めぐる動き

1 子供の読書活動を取り巻く社会情勢の変化

近年のグローバル化の進展や、絶え間ない技術革新により、子供の読書活動にも変化が生じてきています。さらに令和2年は、新型コロナウイルス感染症拡大により、子供たちの生活や学びに対してあらゆる対策が講じられました。その中で、令和2年5月29日に全国学校図書館協議会から示された「新型コロナウイルス感染症拡大防止対策下における学校図書館の活動ガイドライン」³では、感染症の拡大を防止しながら子供たちの読書活動や学習活動を可能な限りサポートするための指針が提示されています。新しい生活様式での子供たちの学びには、情報通信技術（ICT）を活用する支援の在り方も推奨され、学びのツールとして効果的な活用をすることで、学習方法の幅を広げることが期待されています。

また、令和元年6月には、学校教育の情報化の推進に関する理念や国、地方公共団体等の責務を示した「学校教育の情報化の推進に関する法律」が施行され、地域の実情に応じた施策を総合的かつ計画的に実施することが求められました。読書環境においてもまた、このような情報通信技術の効果的な活用方法の模索が始まっています。

2 子供の読書環境における施策の動向

(1) 子供の読書活動の推進に関する基本的な計画（第四次計画）

国が「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（第一次計画）」策定した平成14年頃から、1か月間に一冊も本を読まない子供（不読者）がいることが課題として挙げられていました。約15年の取組を通して小・中学生の改善は見られたものの、高校生期は依然として不読率が高いことが課題とされています⁴。改善に向けた視点として、発達段階に応じた取組で読書習慣の形成を促すことや、友達同士で読書を楽しむ機会を設けることなどが挙げられました。また、読書への関心をさらに高めることにも重点を置いた施策がまとめられ、生涯を通じて読書を楽しむ基盤づくりがより一層重視されています。

(2) 学校図書館法の改正による学校司書の法的位置づけの明確化

平成26年に「学校図書館法の一部を改正する法律（平成26年法律第93号）」が成立し、学校司書の法的位置づけが明確化されるとともに、学校司書への研修等の実施について規定されました。

その後、平成28年には国から、学校図書館の整備・充実を図るため、学校図書館の運営上の重要な事項について、その望ましい在り方を示す「学校図書館ガイドライン」⁵及び学校司書に求められる知識・技能を整理した上で、それらの専門的知識・技能を習得できる望ましい科目・単位等を示す「学校司書のモデルカリキュラム」⁶が作成されました。

³ 全国学校図書館協議会（令和2年5月14日策定、その後一部改正）

⁴ 子供の読書活動の推進に関する有識者会議 論点まとめより（平成30年3月）

⁵ 「学校図書館の整備充実について（通知）」文部科学省（平成28年11月）…学校図書館の整備充実を示した指針

⁶ 「学校図書館の整備充実について（通知）」文部科学省（平成28年11月）…学校司書の養成に関するカリキュラム

(3) 読書バリアフリー法の成立

令和元年に「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律（読書バリアフリー法）」⁷が施行されました。この法律では、視覚障がい、発達障がい、肢体不自由等で本を読むことに困難さを抱える方にも、読書を楽しむことができる環境を整備し、提供していくことを求めています。

(4) 学習指導要領の改訂

平成 29 年 3 月に幼稚園指導要領、小学校及び中学校学習指導要領が告示され、また、平成 29 年 4 月に特別支援学校（幼稚部教育要領、小学部・中学部学習指導要領）、平成 30 年 3 月に高等学校指導要領、平成 31 年 2 月に特別支援学校（高等部学習指導要領）が告示されました。現在は、段階的に授業改善が進められています。この指導要領における「読書」は、「知識及び技能」の「我が国の言語文化に関する事項」の中に位置付けられ、読書を国語科で育成すべき資質・能力の一つとして捉えられています。また、新設された「知識及び技能」の「情報の扱い方に関する事項」との関連も求められています。

(5) 浜松市 SDGs 未来都市計画⁸

平成 27 年 9 月の国連総会決議において持続可能な開発目標（SDGs）が採択され、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現を目指して 169 の関連ターゲットを伴う 17 の目標が定められました。本市においては、平成 27 年度から 30 年後（一世代先）の浜松の理想の姿「1 ダースの未来」を描いた総合計画がスタートしており、経済・社会・環境の調和等を基調とした、SDGs の理念にも通ずる社会を描き、その実現に向けて取組を進めています。

読書活動の推進においても SDGs の理念に基づきながら取組を充実させるとともに、計画の推進が SDGs の達成に寄与することを目指します。



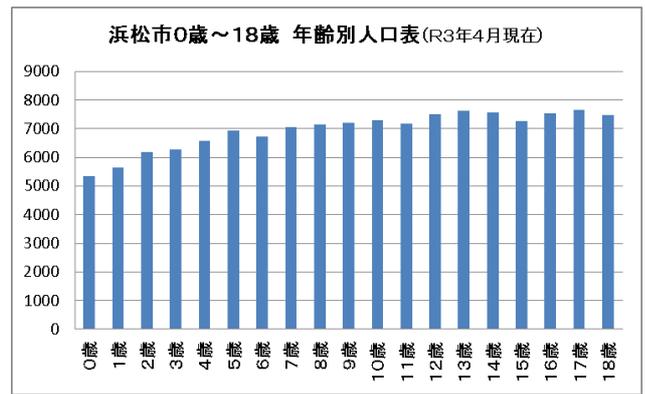
⁷ 視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律（読書バリアフリー法）（令和元年法律第 49 号）

⁸ 浜松市 SDGs 未来都市計画（2021～2023）（令和 3 年 3 月 浜松市）

3 本市の状況

(1) 浜松市の0歳～18歳の人口

浜松市の0歳から18歳までの人口は、年々減少傾向にあり、令和元年10月の調査では、0歳児が初めて6千人を下回りました。75歳～80歳の年齢別人口の平均が8千人を超えている現状から、少子高齢化は他の市町村と同様に大きな課題の1つに挙げられています。

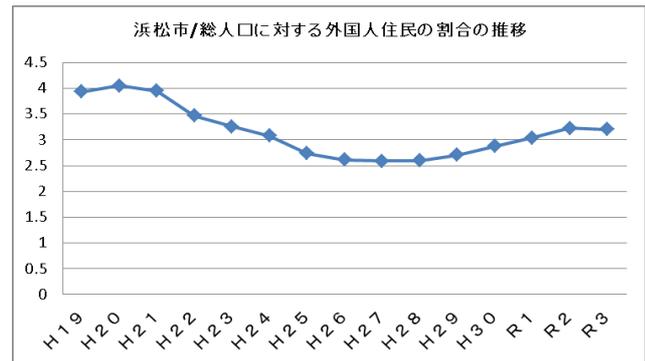


【浜松市 住民基本台帳より】

(2) 浜松市における外国人市民の割合

平成19年から減少傾向にあった外国人市民の割合ですが、平成27年を境にまた少しずつ上昇が見られます。

また浜松市は、市立小中学校の約8割に外国籍児童生徒が在籍し、平成30年度には、その国籍が30か国にも渡る⁹など、多国籍化が続いています。

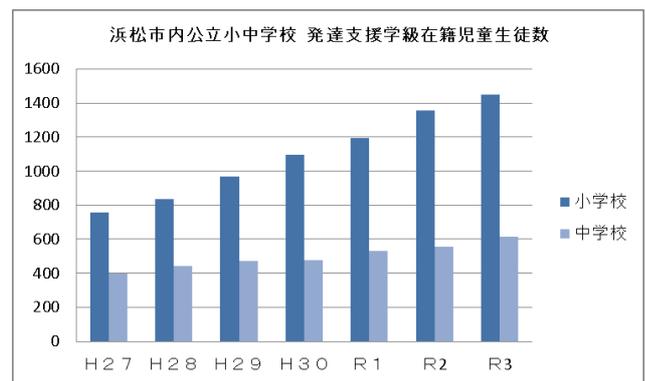


【浜松市 行政区別世帯数人口より】

(3) 特別な支援を要する児童・生徒数

浜松市において、特別な支援を要する児童・生徒の数は増加傾向にあります。

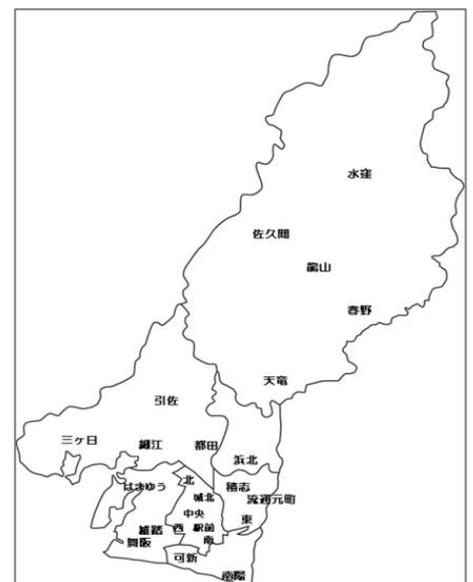
一人一人の教育的ニーズに応じた環境を整えるため発達支援学級や通級指導教室の拡充と整備を進め、小学校では約7割、中学校では約8割の学校に発達支援学級を設置しています。



【浜松市 公立小中学校児童・生徒数より】

(4) 浜松市の面積と図書館の設置数

浜松市の総人口は797,938人で(令和3年4月調査)、静岡県内最大の人口を有する政令指定都市です。また面積は1558.06km²であり、全国第2位の広さを誇っています。浜松市内には23の図書館と1分室を有し、全国の政令指定都市の中でも2番目の施設数となっています。市内には7つの行政区があり、浜松駅周辺の中区から自然豊かな天竜区まで、各地域の生活環境は様々です。そのため、地域の特性や文化に応じた、特色ある選書やサービスが行われています。



⁹ 第3次浜松市教育総合計画 後期計画 p11 (令和2年3月) より

(5) 学校図書館補助員の配置

浜松市は、公立小・中学校に学校図書館補助員を100%配置し、子供たちの学びの支援や図書室の環境整備等を行っています。

また、中央図書館内に設置している「学校図書館支援センター」と連携を図り、連絡会や研修会等も行っています。

(6) 浜松市の目指す教育

浜松市は教育理念として「未来創造への人づくり」「市民協働による人づくり」を掲げています。また、目指す子供の姿として以下の3点があります。

「自分らしさを大切にすること」

「夢と希望を持ち続けること」

「これからの社会を生き抜くための資質・能力を育むこと」

また、令和2年11月には「はままつ人づくり未来プラン 教育の情報化編」¹⁰が策定されました。その中の「浜松市情報活用能力育成目標」には、資質・能力の「知識及び技能」において、視点のⅠ「基本的な操作・活動スキル等」に「図書等の資料の活用」が定められています。発達段階に応じて資料から必要な情報を探したり、複数の資料を関連付けながら情報を見付けたりする能力は、ICTを活用した情報収集能力とともに大切な力であると捉えられています。

(7) 浜松市図書館ビジョン

浜松市総合計画「浜松市未来ビジョン」を受け、浜松市立図書館では「浜松市図書館ビジョン」¹¹を策定しています。市民の図書館未来宣言としては、以下の4点を掲げています。

- ・「いかす」…わたしは、毎日の生活を潤すために図書館機能を活用します
- ・「はぐくむ」…わたしは、図書館で『知る』ことを楽しみ、地域の中で成長します
- ・「つながる」…わたしは、図書館で『人』と『情報』と『地域』とつながります
- ・「つくる」…わたしたちの図書館を、未来に向けてつくります

この中の「はぐくむ」には「子供の読書環境の充実」を掲げ、子供読書活動の推進や、学校の授業で活用できる資料と学校図書館支援事業の充実等が挙げられています。

¹⁰ 第3次浜松市教育総合計画後期計画 はままつ人づくり未来プラン教育の情報化編（令和2年11月）浜松市教育委員会

¹¹ 浜松市図書館ビジョン（平成30年10月）浜松市立中央図書館

第3章

第2次推進計画期間における 子供の読書活動の現状と課題

乳幼児期における主な取組

人は、乳幼児期に周りの大人からの言葉を身体や心で感じ取り、コミュニケーションを通して言葉を少しずつ習得していきます。そのため、この時期における絵本との出会いは、成長に欠かせないものです。市立図書館では乳幼児期における取組について実践を重ね、絵本との触れ合いや、親子での読書習慣の確立に向けて様々な活動を継続しています。

～主な取組～

- ◇ ブックスタート
- ◇ えほんとわらべうたの会
- ◇ おはなし会
- ◇ あかちゃんのための絵本講座
- ◇ パパ・ママ絵本講座
- ◇ おでかけ絵本講座（幼稚園、保育園、こども園など）
- ◇ おでかけおはなし会（同上）



ブックスタート

実績：令和元年度 開催数（373回）参加組数（2893組）



【8か月～1歳の子供とその保護者】

令和2年度 開催数（695回）参加組数（2258組）

赤ちゃんと保護者に、絵本を開く楽しい体験といっしょに絵本を手渡し、心ふれあうひとときを持つきっかけをつくる活動です。

- 絵本の読み聞かせとわらべうた遊びの紹介、図書館職員からのアドバイス、対象の赤ちゃんひとりに対し、おすすめの絵本を一冊プレゼント
- 市内23の図書館と、2つのショッピングセンター、1つの保健福祉センターで実施
- 市民（ボランティア）と行政（図書館、司書）が協力、連携して行うことも特徴のひとつ
- 外国語（ポルトガル語、英語、中国語）通訳付きの回も開催

えほんとわらべうたの会

実績：令和元年度 開催数（634回）参加者数（8629人）

【0歳～3歳の子供とその保護者】

令和2年度 開催数（33回）参加者数（311人）

おはなし会

実績：令和元年度 開催数（532回）参加者数（3914人）

【おおむね3歳～8歳】

令和2年度 開催数（0回）参加者数（0人）

絵本の読み聞かせやわらべうた遊びを、年齢に応じたプログラムで楽しめます。



「えほんとわらべうたの会」
案内ページ



「おはなし会」
案内ページ

絵本講座

(図書館内で行うもの)

実績：あかちゃんのための絵本講座（全1回）

令和元年度 開催数（8回）参加者数（子供71人、大人95人）

令和2年度 開催数（8回）参加者数（子供44人、大人63人）

実績：パパ・ママ絵本講座（全3回）

令和元年度 開催数（6回）参加者数（延べ39人）

令和2年度 開催数（1回）参加者数（0人）



赤ちゃんから乳幼児の保護者に向けて、絵本の読み聞かせやわらべうた遊びの紹介、読み聞かせの大切さや絵本の選び方についての講話をします。対象年齢により名称を変えています。

<あかちゃんのための絵本講座>（全1回）

- 1歳を迎える子の保護者、又は妊娠中の方やそのご家族が対象

<パパ・ママ絵本講座>（全3回）

- 2歳を迎える子と、その保護者が対象
- 親子いっしょに絵本の読み聞かせとわらべうた遊びを楽しんでもらった後、保護者向きに絵本について講話
- 3回連続講座。連続参加することで、より深く絵本について知ることができる内容としているが、1回のみ参加も可能。



写真は令和2年度の様子

おでかけ絵本講座

(依頼に応じて行うもの)

実績：令和元年度 開催数（19回）参加者数（778人）

令和2年度 開催数（4回）参加者数（48人）



幼稚園、保育園、こども園や子育て支援施設などへ、依頼に応じて図書館職員が出かけ、読み聞かせの大切さや絵本の選び方などについて講話します。

保護者向け、保護者と幼児（児童）向け、ボランティア向けなど、対象に応じた講座を行います。

- 1回につき60分～120分の講座（依頼者との調整による）
- 依頼者側で会場の準備ができない場合や、参加者が少人数の場合などは、図書館を会場として行うこともある

※小学校や一般団体からの依頼も受付しています。

小学生期における主な取組

6歳から12歳の6年間は、生涯にわたって読書に親しみ、読書を楽しむ習慣を形成していく上で、大切な期間です。発達段階や一人一人の興味関心に沿った支援を、家庭・地域・図書館そして学校等が連携して講じています。

～主な取組～

【講座やコンクール】

- ◇ 調べ学習講座
- ◇ 調べ学習コンクール
- ◇ 読書感想文コンクール
- ◇ 親子新聞講座
- ◇ こども郷土研究講座

【学校や図書館の取組】

- ◇ 図書館訪問
- ◇ おでかけ図書館
- ◇ 学習支援パック

【学校での取組】

- ◇ 朝読書
- ◇ 読み聞かせ
- ◇ 読書週間の取組
- ◇ 授業での並行読書
- ◇ 学級文庫の設置

調べ学習講座 【小学校3年～6年生対象：市立図書館講座】



子供たちの「調べるっておもしろい」という学びへの意欲を応援するため、図書館職員が講師となり、調べ学習の進め方や資料のまとめ方などを紹介する講座です。

- 市内小学校3年生全員に配付している「調べ学習の手引き」を活用
- 講座は、6月～8月に市内図書館を会場に開催
- 調べてまとめた作品は、「浜松市調べ学習コンクール」への応募も可
- 中・高校生向けの「情報活用講座」もあり



浜松市調べ学習コンクール【小学校3年生～6年生対象】

浜松市立中央図書館と浜松市教育委員会指導課の共催



学習の基盤となる資質・能力である「情報活用能力」や「問題発見・解決能力」を育むことを目的に、公益財団法人図書館振興財団が主催する「図書館を使った調べる学習コンクール」の地域コンクールとして開催しています。

- 夏休み明けの9月に作品を募集し、審査会を実施
- 小学校1、2年生や中学生以上の生徒は、個人で全国コンクールへ応募することができる
- より多くの子供たちに調べ学習の楽しさを伝えるため、夏休み前頃から市内図書館において、過去の作品展示を行っている



おでかけ図書館 【小学校～高等学校対象】



図書館職員が小・中学校等に出向き、調べ学習の方法、図書館の利用、授業におけるブックトークなどを行う取組です。学校と図書館をつなぎ、読書活動の推進や図書館利用の促進を図っています。

- 浜松市立中央図書館内にある「学校図書館支援センター」が受付窓口となり、学校からの要望に応じて内容を決める
- 市内の小・中学校に毎年4月に配付する「どんどん活用！！浜松市立図書館～学校向け利用案内～」に学校向けのサービス一覧を掲載
- 令和3年度からは、さらに読むことに困難さを抱える子供たち向けの取組も充実

小学校での取組例 【国語科】

浜松市の小学校では、指導のねらいをよりよく実現するために、教科書教材と関連させ、自分が選んだ本や資料を読む「並行読書」を学習に位置付け、指導している実践が多く見られます。並行読書の最大のメリットは、子供が主体的に読む姿を実現しやすくなることです。ここでは、小学校1年生の実践を紹介します。



国語科 第1学年「生きものかくれんぼずかんをつくろう」
教科書教材『うみのかくれんぼ』、海の生き物に関する図鑑等

【学習の主な内容】

- 「文章の中の重要な語や文を考えて選び出す力」を育むため、叙述から海の生き物が「隠れている場所」、「体の特徴」、「隠れ方」等を見つけていく学習を行った
- 身に付けた力を活用するため、図鑑から必要な言葉を選び出す学習を設定。その際、学校図書館の蔵書のみならず、市立図書館の学習支援パックを活用し、子供たちに資料を提供した

【子供たちの様子】

- 海の生き物だけではなく、虫や哺乳類など陸上で生活する生き物にまで、自分が紹介したい動物の選択の幅を広げることで、子供たちは意欲的に言語活動に取り組み、「文章の中の重要な語や文を考えて選び出す力」を身に付けることにつながった

学習支援パック 【主に小学校～中学校対象】



市立図書館が各教科の学習や調べ学習において参考となる図書資料を用意し、パックにして貸出をしています。国語科「すがたをかえる大豆」や「うみのかくれんぼ」、また「ユニバーサルデザイン」「手話・点字」「伝統文化」等の資料は、並行読書や調べ学習で大変人気のあるパックです。

- パック内容は学校現場からの意見を参考に更新し、授業で活用しやすい資料をそろえている（パックは約60種類）
- 浜松市立中央図書館内にある「学校図書館支援センター」が窓口となり受付し、受取希望の図書館へ連絡便で送付
- 貸出期間は3週間で、1つのパックには約20冊～50冊程度の資料がある



中・高校生期における主な取組

読書に関する発達段階ごとの特徴として、中学生は「多読傾向は減少し、共感したり感動したりできる本を選んで読むようになる」、そして高校生は「読書の目的、資料の種類に応じて適切に読むことができる水準に達する」ことなどが挙げられています。より質の高い読書活動が展開できるよう、学校種間の接続期において生活が変化することを踏まえ、家庭・地域・図書館・学校等が切れ目のない支援の充実に向けて取り組んでいます。

～主な取組～

【講座・ボランティア等】

- ◇ 情報活用講座
- ◇ 読書感想文コンクール
- ◇ 図書館ボランティア
- ◇ サマーショートボランティア

【学校と図書館の連携】

- ◇ 学習支援パック
- ◇ 職場体験
- ◇ 職場実習
- ◇ インターンシップ

【学校での主な取組】

- ◇ 朝読書
- ◇ 読み聞かせ
- ◇ 読書週間のイベント
- ◇ 調べ学習

図書館ボランティア 【中学生・高校生対象】



主に中学生を対象に、市立図書館における図書館ボランティアを募集し、年間を通して活動を受け入れています。中学生・高校生が図書館とつながりを持ち、本とふれあう活動を通して読書環境を豊かにしていくことを期待しています。

- 中学校1年生には、4月の入学時に「図書館ボランティア募集」案内を、学校を通して配布
- 通常5月頃、ボランティア活動の説明会を行い、登録後に活動がスタート
- 活動した生徒には、活動参加証を発行。学校を通して渡すため、生徒の活動を市立図書館と学校が連携して支援できる



職場体験 【主に中学生・高校生対象】

キャリア教育の一環として小学生の受け入れも行っています



図書館業務に興味があったり、読書を楽しみのひとつとして大切にしたりしている中・高校生を職場体験で受け入れ、活動を支援しています。

- 中学校や高等学校からの依頼を受けて、市立図書館で受け入れを実施
2日～3日間の体験が多く、配架や書架整理等の業務を行っている
- 浜松市が教育の重点に掲げている「キャリア教育」の一環として、小学校高学年児童の受け入れも実施



中学校での取組例 【国語科】

中学校においては、教科書教材を学習した後、同じテーマの本や文章を読み、自分の考えを広げたり深めたりする学習を位置付ける実践が、特徴として挙げられます。ここでは、中学校3年生の実践を紹介します。



国語科 第3学年

「状況を捉え、人の生きる姿や社会について考えを深める」 『故郷』 他

【学習の主な内容】

- 「読書座談会で人の生き方や在り方について語り合う」という言語活動を設定。教科書教材の『故郷』を読み、人間の生き方や在り方について自分の考えをもち、そこで身に付けた力を活用し、自分が選んだ作品を読み進めていく
- 終末では、その本の中に見えた人間の生き方や在り方に対する考えをもち寄り、読書座談会で自分の考えをさらに深めた

【生徒の様子】

- この学習では、市立図書館と連携し、「様々な状況で生きる人間を描いた作品」を選書し子供たちに提供した。文学的文章だけではなく、絵本や写真入りの非連続テキストによる本等、子供たちの実態に合わせた選書をしたことで、授業において進んで本を手に取り、読み進める姿が見られた
- 子供たちの実態に合わせた選書は、各々が登場人物の設定や物語の背景に着目し、人間の生き方や在り方について、自分なりの考えをもつことにもつながった

高等学校での取組例 【総合的な探究の時間】

浜松市立高等学校 1年生「ビブリオバトル」

【企画のねらい】

- ・ 読書を楽しむ気持ちを育む
- ・ 友達の新たな一面を発見する
- ・ 分かりやすく相手に話し、自分の思いを伝える
- ・ 友達の話をしっかり聞く

【ルーブリック】

項目は以下の3点

- ・ 構成 ・ 姿勢 ・ 興味

それぞれに対して、0～3点で評価していく

【学習の主な内容】

- ビブリオバトルの映像を見て内容を把握した後、各自準備を進めていく
- 本の選書の段階では、担任のほかに図書室の司書も支援
- クラスで予選を行い、その後、代表者10人による「校内ビブリオバトル」が開催される

【生徒の様子】

- 予選の段階から、多くの生徒がとても楽しく参加していることが感じられた。しかし、5分間の持ち時間を有効に活用して、自分の思いを伝えるのは難しいことが、生徒の様子から見てとれる
- 本の魅力を「いかに分かりやすく伝えるか」について考え、体験することを通して、読書の楽しさや言葉を選ぶことの大切さに気付く生徒が見られた

読書活動の基盤となる取組

幼児期から中・高校生期の子供たちの読書活動を支えるため、基盤となる環境づくりや読書推進をする人材育成にも力を入れて取り組んでいます。

～主な取組～

- ◇ 授業支援カードの作成、資料の貸出、レファレンスへの対応
- ◇ 図書館読み聞かせボランティア養成講座
- ◇ 図書館読み聞かせボランティア ステップアップ講座
- ◇ 子ども読書推進講演会
- ◇ 子ども読書支援ボランティア
- ◇ 学校図書館補助員研修会、連絡会等の実施



図書館読み聞かせボランティア養成講座【市立図書館講座】

ボランティアとして子供に絵本の読み聞かせを行う意義や心構え、絵本の選び方や読み方について、講義と実習を行っています。

- 修了生有志による自主組織「よみんぐ」は、市立図書館のおはなし会での読み聞かせや、職員との合同研修などを行い、市立図書館との連携を図っている
- さらに力量を高めるため、「図書館読み聞かせボランティア ステップアップ講座」も開催



写真は平成30年度の様子

学校図書館補助員研修会【公立小・中学校勤務の補助員対象】

浜松市内の公立小学校、中学校の図書館補助員設置率は100%です。個々の力量を高めるとともに、より質の高い学校図書館運営が行えるよう、研修会を開催しています。

- 市内公立小・中学校に勤務する学校図書館補助員を対象に研修会を実施
- 新任の学校には、「静岡県子ども読書アドバイザー」を派遣し、図書館運営やシステムの説明等を実施
- 年度末には、「学校図書館補助員連絡会」を行い、新年度に向けた準備について情報共有や意見交換を行う



2 本市の子供の読書活動の現状と課題

(1) 第2次計画期間後半（令和2年度末まで）の数値に見る現状と課題

■中学生、高校生の市立図書館の利用

【現状】

平成29年度より中学生の市立図書館利用者登録率は30%台、高校生は20%台となっており、第2次計画期間の最終目標値（中学生70%、高校生60%）より大きく下回る結果となりました。学習をする場所として図書館を利用する生徒が多く見られます。

【課題】

レファレンスサービス等の機能を活用した、図書館利用の周知が必要です。

■ブックスタート参加組数

【現状】

平成28年度より参加組数は、毎年度減少傾向にあります。

【課題】

参加者の減少にともない、開催方法やPR方法の検討が必要です。

※別紙参考資料

「令和2年度浜松市『ブックスタート』についてのアンケート調査結果の概要」に、詳細を掲載しています。

■各種絵本講座の開催

【現状】

図書館サービスの多様化に伴い、平成30年度に講座の実施回数を減らしたことで、参加数が大きく落ち込みました。

【課題】

効果的な企画、参加しやすい開催方法の工夫、担当職員の育成及び資質向上が急がれます。

■図書館読み聞かせボランティアの育成と活動の充実

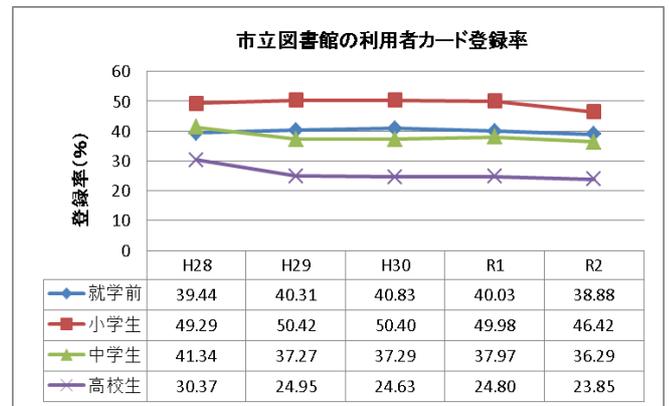
【現状】

「図書館読み聞かせボランティア養成講座」の修了者は、平成28年度以降、受講定員30人に対しておおむね20人台となっています。

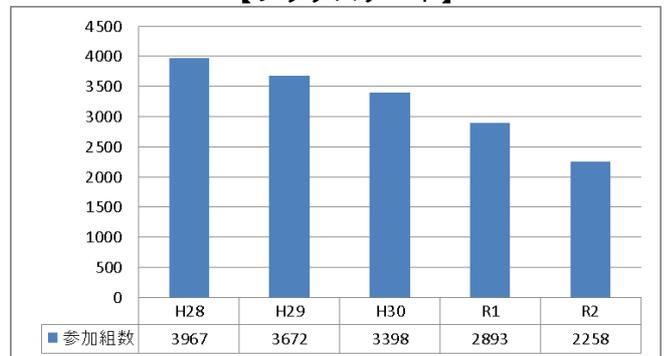
【課題】

社会情勢の変化に伴う活動者の減少を見越し、新規会員育成を継続するとともに、新しい生活様式に即した活動についての検討が求められています。

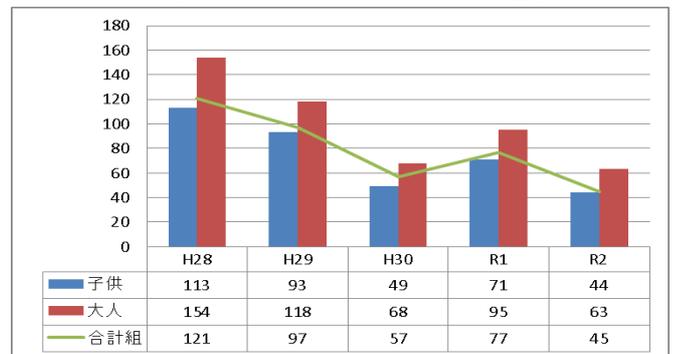
【利用者カード登録率】



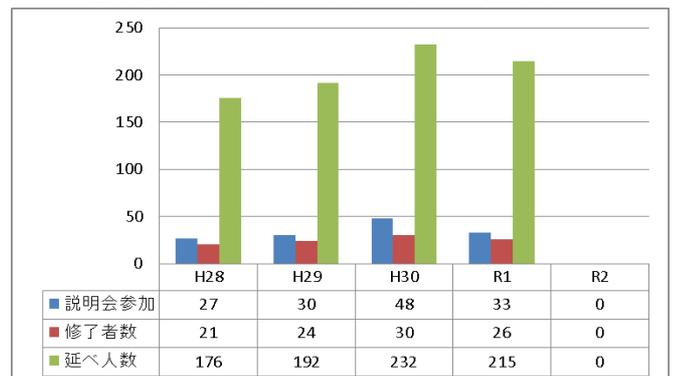
【ブックスタート】



【あかちゃんのための絵本講座】



【図書館読み聞かせボランティア養成講座】



■読書バリアフリーに向けた取組

【現状】

外国語を母語とする子供を主な対象とした、「いろいろな国のことばのおはなし会」は、開始した平成 27 年度以降、参加が減少しています。

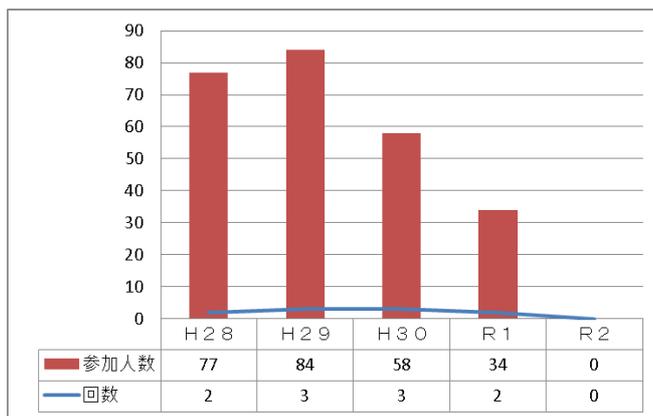
また、特別支援学校への「おでかけおはなし会」は、平成 28 年度実績と比較すると、訪問回数、参加数とも減少傾向が見られ、特に令和2年度は新型コロナウイルス感染症に対する予防措置として、学校からの希望が大きく減ることとなりました。

【課題】

浜松市の外国籍の子供が多い地域性や発達支援学級等の増加に鑑み、取組内容の検討が必要です。今後は、現場の希望を汲み取り、効果的な読書活動支援の改善が求められています。

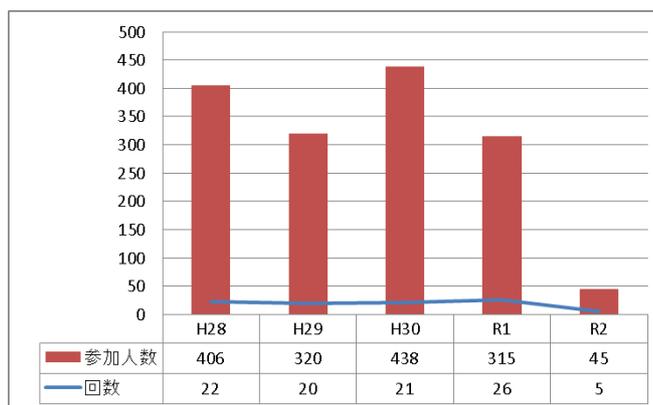


【いろいろな国のことばのおはなし会】

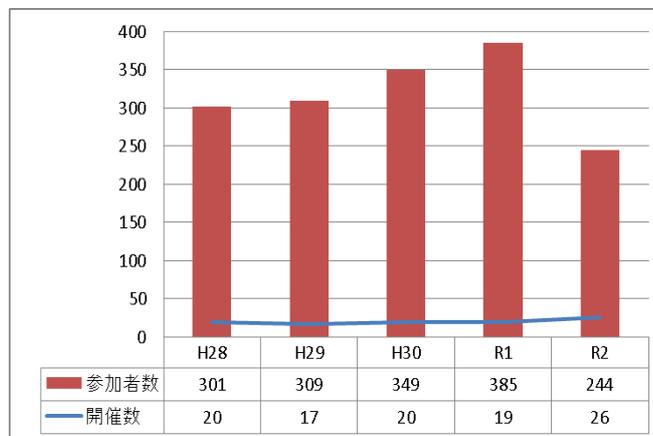


※R2年度は中止

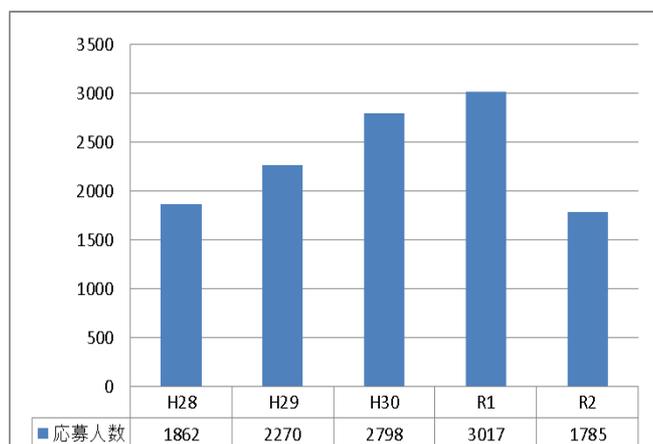
【特別な支援を要する子供の読書活動支援(おはなし会)】



【調べ学習講座】



【調べ学習コンクール応募人数】



■調べ学習支援の取組

【現状】

平成 21 年度から始まった「浜松市調べ学習コンクール」は、年々応募数が増加し、作品の質も向上しています。コロナ禍に見舞われた令和2年度は減少したものの、魅力的な作品が集まりました。併せて開催している「調べ学習講座」は、開催方法の工夫によって、多くの児童が参加できる機会を提供できています。

【課題】

情報化社会で必要とされる資質・能力の視点からも内容を検討し、講座内容のさらなる改善が求められています。



(2) アンケート調査結果に見る本市の子供読書活動の現状と課題

「第3次浜松市子供読書活動推進計画」の策定にあたり、子供の読書活動の状況と関係者の意識を把握するために4種類のアンケート調査を実施しました。その結果から明らかになった、本市における子供読書の現状と課題は以下の通りです。 (参考資料: アンケート結果参照)

■「浜松市広聴モニターアンケート調査」による現状と課題 ■

調査対象：広聴モニター223人
調査方法：用紙郵送、インターネット回答 調査時期：令和2年6月

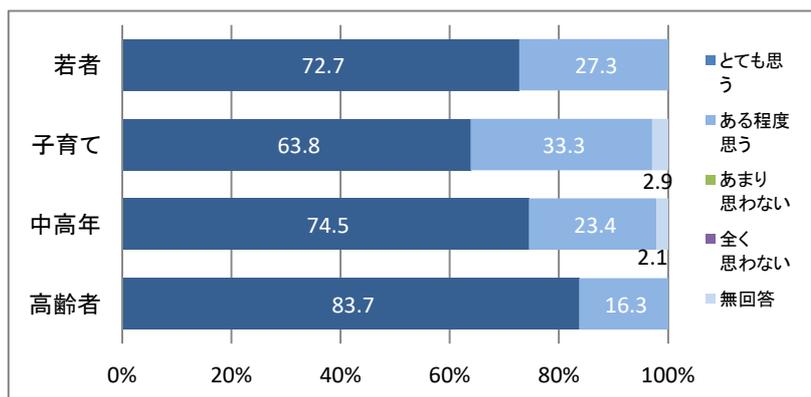
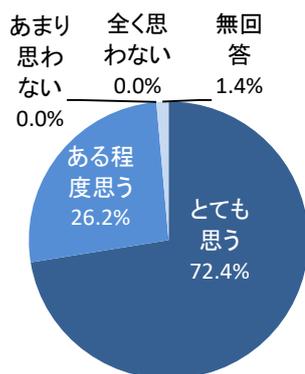
【現状】

子供(0歳~18歳)にとっての読書や本の読み聞かせの有用性については、広く周知されていることを示す結果となりました。読書が子供の成長、発達にとって必要である理由として「文章や言葉に親しむことで、読解力や表現力を育む」を選ぶ人が最も多く、次いで「様々な作品に親しむことで、思考力や想像力を育むことができる」「知的好奇心を育み、新たな知識を獲得することができる」となりました。

【課題】

近年の子供たちの読書傾向として「以前に比べ読書に親しむことが減っている」と感じる人の割合は、約6割となっています。

■ 問1 子供(0~18歳)の成長、発達において、読書が必要だと思うか (N=214)



■「浜松市『ブックスタート』についてのアンケート」による現状と課題 ■

調査対象：市内保育園7園(各区1園ずつに在園する子の保護者439人)
調査方法：保育園から保護者に用紙配布 調査時期：令和2年5月~6月

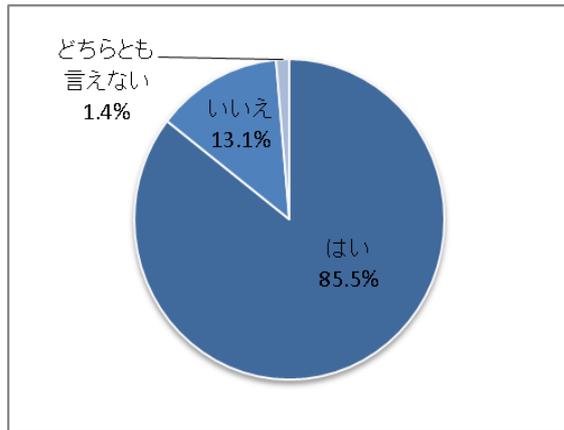
【現状】

平成19年度から市内の図書館やショッピングセンターで実施してきたブックスタートは、今回のアンケート調査で「参加した」と回答した割合は6割でした。参加者のその後の状況として「参加以降、自宅での読み聞かせやわらべうた遊びが増えた」と回答した割合は8割以上、「ブックスタートの配布物(絵本、リーフレット、おはなし会PRチラシ等)を活用している」と回答した割合は9割近くという結果となり、この取組が乳幼児とその保護者にとって有意義なものであることが分かりました。

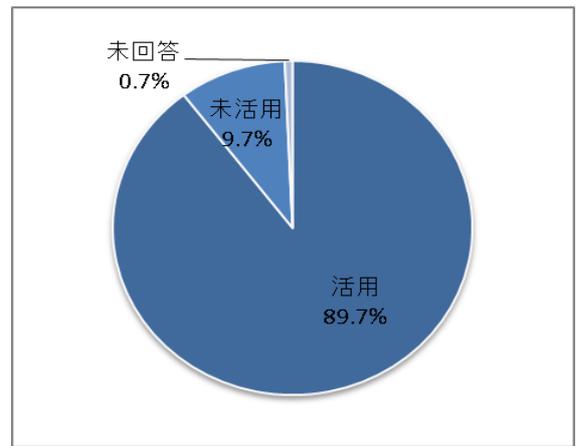
【課題】

乳幼児期から本を手渡すきっかけ作りとなるブックスタートへの参加を働きかけるとともに、参加しやすい時間帯や会場などの検討を行っていく必要があります。

■問 3(4) 参加以降、自宅での読み聞かせやわらべうた遊びを楽しむことが増えましたか？ (N=290)



■問 3(5) ブックスタートの配布物を活用していますか？ (N=290)



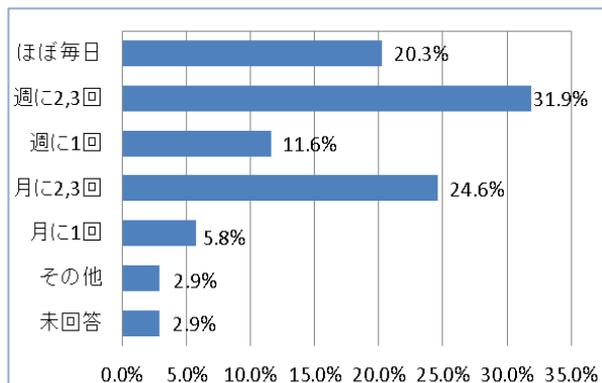
■「浜松市立図書館『多文化サービス』についてのアンケート」による現状と課題

調査対象：浜松市外国人学習支援センター、日本語教室受講生、外国人図書館ボランティア ほか 127 人
 調査方法：各団体から用紙配布、図書館より用紙郵送
 調査時期：令和 2 年 7 月～9 月

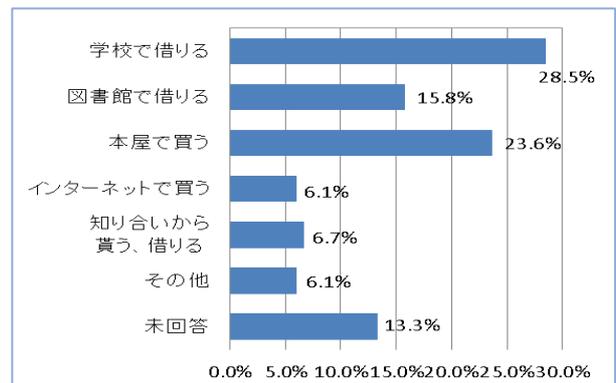
【現状】

外国人市民を対象とした多文化サービスについてのアンケート調査では、子供に対して定期的に自宅で読み聞かせを行っているという回答は 8 割を超え、内訳は「週に 2、3 回」(31.9%)、「月に 2、3 回」(24.6%)、「ほぼ毎日」(20.3%)、「週に 1 回」(11.6%)という結果でした。子供の本の入手先は「学校で借りる」が最も多く(28.5%)、次いで「本屋で買う」(23.6%)、「図書館で借りる」(15.8%)となっており、外国人市民が子供の本のニーズを満たす上で、学校が重要な位置を占めることがうかがえる結果となりました。外国語資料や日本語習得に資する資料の整備が、特に外国人市民の多く住む地区の学校に望まれます。

■問 7(1) どの位の頻度で子供に本を読んでいますか？ (N=69 複数回答)



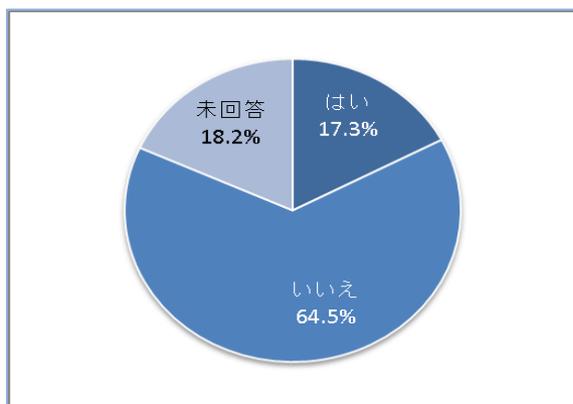
■問 7(2) 子供の本をどのように手に入れますか？ (N=110 複数回答)



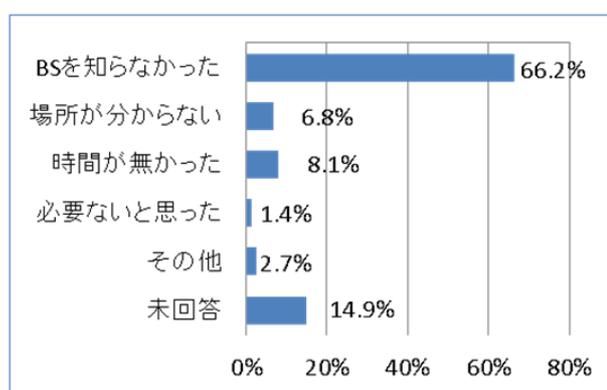
【課題】

読書に対する一定の関心が認められる一方で、アンケート回答者のうちブックスタートへの参加は 17%程度に留まりました。不参加の要因として「ブックスタート自体を知らない」「時間がない」「会場の場所がわからない」といった理由が多く挙げられており、外国人市民を対象とした効果的な PR の必要性を示す結果となっています。

■問4 ブックスタートに参加しましたか？
(N=110)



■問4(2) ブックスタートに参加しなかった理由は何ですか？ (N=71 複数回答)



※グラフでは、ブックスタートをBSと表示しています

■「浜松市立図書館『特別な支援を要する子供たちの読書活動』についての調査」による現状と課題

調査対象：浜松市内の特別支援学校に勤務する教職員 256 人
調査方法：各学校を通じた用紙の配布 調査時期：令和2年5月～6月

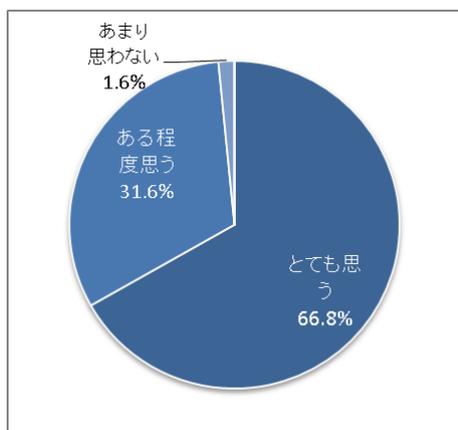
【現状】

市内の特別支援学校6校の教職員を対象にアンケート調査を実施しました。その中で「子供の成長、発達にとって、読書が必要か」の設問に対し「とても思う」「ある程度思う」が合わせて98%を超えました。通常の形態での読書が可能な子供と同様、心身に障がいをもつ子供にとって、読書は人間としての成長に必要なものであることを示す結果となっています。読書が必要だと思う理由についても、前述の「浜松市広聴モニターアンケート調査」の回答と同様、「文章や言葉に親しむことで、読解力や表現力を育むことができる」「様々な作品に親しむことで思考力や想像力を育むことができる」「多方面への知的好奇心を育み、新たな知識を獲得することができる」が多く選ばれています。

【課題】

「現在の読書指導環境に満足しているか」の設問に対して「不満」（「どちらかと言えば不満」含む）と回答した割合は3割以下でした。不満の理由として「蔵書が少ない」「古いものが多い」「読書に親しむ時間的余裕が無い」「生徒の状況、ニーズに応じた各種ツールの充実が必要」「読書のための環境整備を望む」といった読書指導に必要な資料・時間・環境の確保についての意見が多くありました。また、「発達年齢（社会年齢や生活年齢）に見合った本の確保」「読書指導の仕方がわからない」「本についての知識が豊富な司書教諭に相談をしたい」等、子供の本や読書指導について情報を必要とする声が挙がり、対応策の検討が必要です。

■問1 子供たちの成長、発達にとって、読書が必要だと思いますか？ (N=256)



読書が大切な理由	割合	人数
優れた作品に親しむことで人生を前向きに捉える力を育むことができる	9.1%	71人
優れた作品に親しむことで他者に共感する力やコミュニケーション能力を育むことができる	17.3%	135人
多方面への知的好奇心を育み、新たな知識を獲得することができる	25.2%	197人
文章や言葉に親しむことで、読解力や表現力を育むことができる	22.9%	179人
様々な作品に親しむことで、思考力や想像力を育むことができる	23.4%	183人
その他	2.2%	17人

3 今後の方向性

前述した本市の子供の読書活動に関する課題への対応も含め、本計画においても、発達段階に応じた取組を継続して実施するとともに、必要に応じて事業の見直しを行い、更に充実を図っていきます。

また、子供を取り巻く状況の変化に伴う課題に対しては、今後新たな取組を推進する必要があります。

(1) 乳幼児期から学童期における家庭への働きかけ

子供の本に対する興味・関心を育むためには、幼い頃からの周囲の働きかけと環境の整備が不可欠です。最も身近な環境である家庭において、質の高い本を通じた触れ合いが、子供の言葉や心を育むことを実感してもらえよう、ブックスタートや絵本講座等への参加を促進するとともに、ホームページやSNSも活用した子供読書活動に資する情報の発信を行っていきます。また、多様な本に触れる機会を持ってもらうため、図書館における資料の充実や親子連れで来館しやすい環境整備、学校や幼稚園における学校図書館・園文庫等の整備を推進する必要があります。

(2) 子供読書支援に係る人材育成と連携

本の世界の楽しさに触れ、生活を豊かなものにする手段として自ら本を手にするようになるには、読み聞かせなど周囲の大人からの働きかけが大切です。そのためには、家庭のほかに、子供に対して様々な本と出合わせてくれる大人の存在が大きな意味をもちます。

市立図書館及び学校では、職員の研修体制を整えるとともに外部研修を積極的に利用し、子供たちの学びや成長に対応できる、高い意識と豊かな知識をもった人材育成に努めていきます。また、地域社会で活動する子ども読書支援ボランティアを、図書館や静岡県子ども読書アドバイザーの連携の元で育成することで、継続的な資質向上に努めます。

(3) 本を使った調べ学習の支援

様々な情報が大量に溢れる現代社会において、自分の読みたい本や必要な情報を探し、正しく理解し使いこなす力を身に付けることは、よりよく生きてく上で大変重要なことです。そのためには、資料を活用し、自らの疑問や課題を主体的に調べる経験を重ねることが、有効な手段となります。

学校においては、児童・生徒に対する学校図書館の利用指導や調べ学習指導を引き続き推進していきます。また図書館では、調べ学習用資料の充実、学校への資料や情報提供サービス、コンクールや講座の開催を継続して行うほか、中学生・高校生を対象とした情報活用に資する取組を実施していきます。

(4) 読書バリアフリーに向けた取組

浜松市子供読書活動推進計画では、心身の障がいや国籍、居住地による読書環境の格差が生じない読書バリアフリーを目指します。

令和元年6月の「読書バリアフリー法」¹³の成立及び令和2年12月の「学校施設バリアフリー化推進指針」の改訂により、本市においても読むことに困難さを抱える子供たちに対する読書活動支援の充実が求められています。

学校においては、読書指導の時間確保とともに、個々の児童・生徒の心身の状況に対応した資料や環境を充実させ、市域全体で有効活用できる仕組み作りの検討が必要です。また市立図書館では、ユニバーサルデザインの観点に立った施設整備や多様な資料の充実と提供を推進する必要があります。

外国語を母語とする家庭の子供や中山間地域に住む子供に対応した読書支援としては、遠隔で利用できる電子図書などの効果的な活用方法の検討や、インターネット・SNS等を使った情報発信をすすめます。特に学校では、時代の変化に柔軟に対応しながら、その場に応じた適切かつ必要な情報を選択収集し、児童・生徒に伝えていきます。

(5) 幼稚園・保育園等、そして学校での取組の充実

子供たちの読書環境や発達段階に合わせた手立てを講じることができるよう、職員と学校図書館補助員等が連携して、資料収集や読み聞かせ等の充実に向けて取組を推進します。

また、探究的な学びに必要な資料の充実とともに、絵本や物語など心を育む図書資料の充実にも重点をおき、一人一人に合わせた資料が提供できる環境を整えます。

幼稚園・保育園等においては、家庭や地域と連携し、子供たちが絵本とふれあうことができる環境を整えたり、読書の楽しさを伝えたりする取組も充実させていきます。

小学校から高等学校においては、教職員と図書館補助員が連携し、調べ学習や国語科の並行読書等で活用できる質の良い図書資料を準備したり、定期的に学校の図書室へ通う習慣を意図的につくったりすることで、生涯における読書の充実に向けての土台を築いていきます。

¹³正式には「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」(令和元年6月 施行)

第4章

浜松市の 子供の読書活動の推進方策

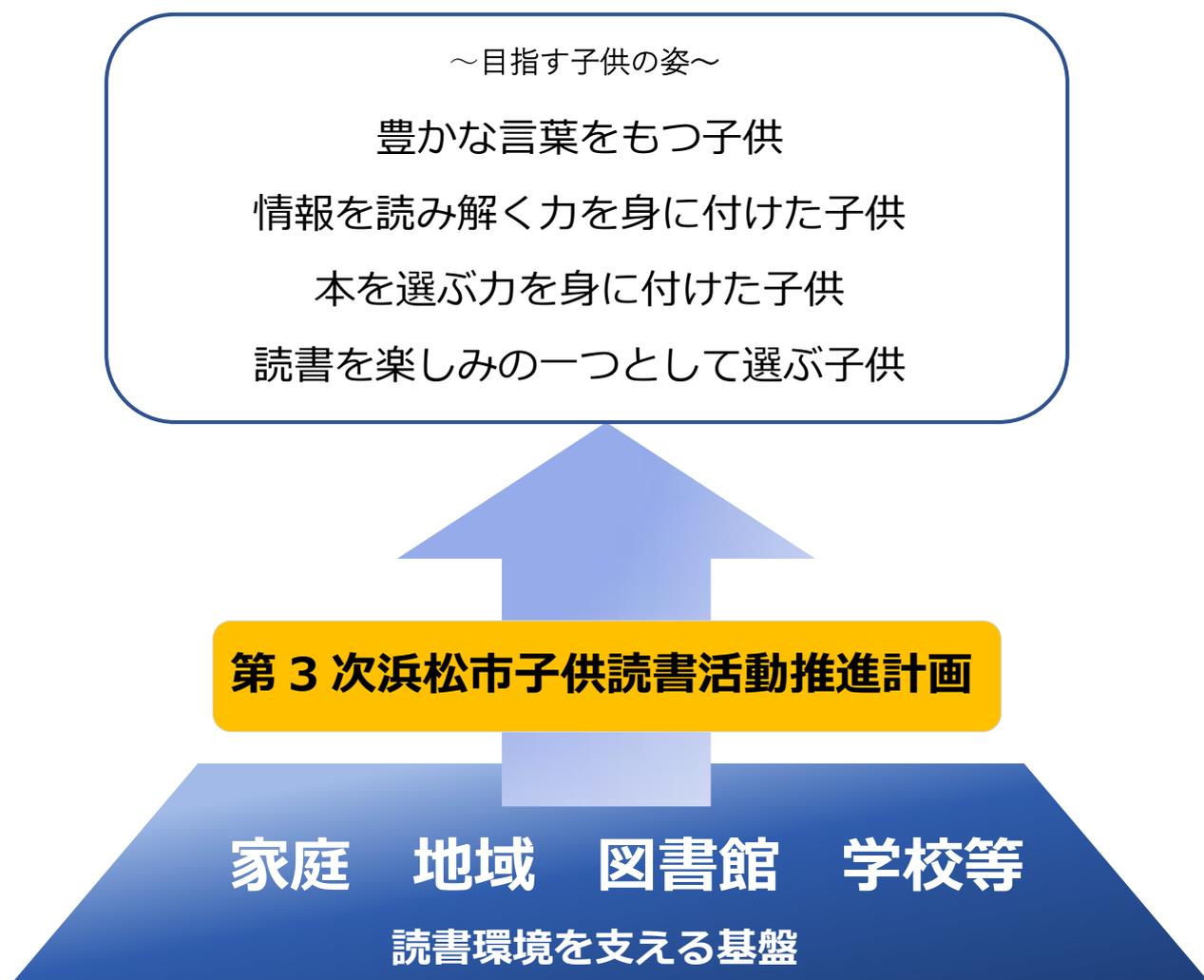
1 基本的な方向性

子供の読書活動を推進していくためには、社会全体で本に親しむ環境を整えていく必要があります。そのためには、家庭・地域・図書館・学校等のそれぞれの取組を明確にするとともに、SDGsの「目標 17：パートナーシップで目標を達成しよう」の理念に基づき、関係団体や機関と連携し、相互に協力しつつ、子供の発達段階に応じて取組を進めていくことが重要です。第2次推進計画を通して充実させてきた基盤のうえで、家庭・地域・図書館・学校等が主体的にそれぞれの特性を生かした取組を推進し、連携を図っていきます。

また読書活動の充実は、すべてのSDGs目標への到達を促すものであり、特に「目標4：質の高い教育をみんなに」や「目標16：平和と公正をすべての人に」の理念に基づき、子供たち一人一人の読書環境の実態に合わせた支援を充実させていきます。

このような取組により、浜松市の子供たち全てに対して読書によってもたらされる恩恵を等しく享受できるよう支援し、「目指す子供の姿」への道筋を示す体制作りを目指します。

2 浜松市の目指す読書活動 ～構想図～



3 4つの目標と取組

読書活動は、人生を豊かなものとし、変化が激しい今の社会を生き抜くために必要な力を身に付けていく上で、欠くことのできない活動です。

読書活動がこれらのねらいに沿ってなされているか否かは読書の量（時間・冊数）だけで判断できるものではありません。主体的・継続的に読書を楽しみ、自分の興味や関心に合った本を選んでいくことが大切です。

子供たちにおける読書活動の意義や目的を十分考慮した上で、本市では、第1次計画から引き続き、次に示すような子供の姿を思い描き、読書環境のさらなる充実により、読書を通じた「生きる力」の育成を推進していきます。

目指す子供の姿

豊かな言葉をもつ子供

自分自身の思いや考えを人に伝え、他の人の思いや考えを汲み取ることができる

情報を読み解く力を身に付けた子供

自分で情報を選択し、正しく理解して使うことができる

本を選ぶ力を身に付けた子供

自分の興味・関心・目的に合った資料や、自らを成長させる本を選ぶことができる

読書を楽しみの一つとして選ぶ子供

読書で味わえる充実感・満足感・喜びを楽しみの一つとして積極的に選ぶことができる

豊かな言葉をもつ子供

自分自身の思いや考えを人に伝え、友達の思いや考えを汲み取ることができるためには、たくさんの言葉を知り、豊かな感性を身に付けていくことが大切です。

読書は、多くの語彙や多様な表現を通して、様々な世界に触れることができる活動の一つです。子供たちは、家庭における読み聞かせや学校での読書体験、地域の方とのふれあいを通して、本を手にするきっかけを広げていきます。また、読書を通じた様々な人とのコミュニケーションは、新たな考え方に会ったり、視野を広げたりすることにもつながります。豊かな言葉は、子供たちの心の豊かさにもつながると考えます。

子供たちが、未来を力強く生きるために、豊かな言葉を乳幼児期から育てていくことを目指します。

「豊かな言葉をもつ子供」の実現に向けた取組

<p>家庭</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者による日常的な絵本や本の読み聞かせ ・ 「ブックスタート」への参加 ・ 「おはなし会」「えほんとわらべうたの会」など、子供と保護者を対象とした読み聞かせへの参加 ・ 「パパ・ママ絵本講座」「あかちゃんのための絵本講座」など、保護者を対象とした各種講座への参加
<p>地域</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子供への読み聞かせや読書支援活動、自主研修による知識や技術の向上 ・ 「おでかけおはなし会」「おでかけ絵本講座」への参加 ・ 浜松市立図書館が開催する「図書館読み聞かせボランティア養成講座」への参加
<p>図書館</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童書の充実 ・ 市内の幼稚園、保育園、こども園等への児童書の団体貸出 ・ ブックスタートの開催及び効果的なPR（「外国語の通訳付きブックスタート」も含む） ・ 「おはなし会」「えほんとわらべうたの会」の開催及び効果的なPR ・ 「いろいろな国のことばのおはなし会」（外国語によるおはなし会）の開催 ・ 「おでかけおはなし会」の実施 →対象は、市内小学校、特別支援学校、幼稚園・保育園・こども園等、子育て広場等関連機関 ・ 保護者を対象とした各種絵本講座の開催 ・ 「おでかけ絵本講座」の実施 ・ 「図書館読み聞かせボランティア養成講座」の開催 ・ 専門的職員の育成及び配置

学 校 等

読書活動の推進

- ・朝読書の充実（読み聞かせも含む）
- ・推薦図書を選定
- ・学級文庫、園文庫の設置、内容の充実
- ・読書週間における取組の充実
- ・市立図書館との連携による取組の充実
→「おでかけおはなし会」の利用、「おでかけ絵本講座」の利用

授業での図書資料活用

- ・並行読書を取り入れた授業の充実
- ・「おでかけ図書館」の利用
→授業導入でのブックトーク、調べ学習、図書館利用等
- ・資料の充実（発達段階に合わせた的確な資料の収集、読書バリアフリーを意識した多様な資料の収集、外国語資料や日本語習得に資する資料の収集等）
- ・研修体制の充実（司書教諭の配置促進を含む）

指標

- ・自分自身の思いや考えを人に伝え、友達のを考えを受け止めることができるようになったと答えた児童・生徒の割合（年度途中で調査）

	令和2年度（実績）	令和3年度（実績）	令和13年度（目標）
小学校	78.0%	85.0%	90%
中学校	86.5%	89.2%	90%

- ・園文庫を活用している保育園・幼稚園・こども園等の割合（年度当初に調査）

	令和2年度（実績）	令和3年度（実績）	令和13年度（目標）
園文庫蔵書の貸出実施	調査なし	70.06%	90%
お薦め絵本の紹介実施	調査なし	42.68%	70%

- ・定期的に読み聞かせを行っている学校等の割合（年度当初に調査）

	令和2年度（実績）	令和3年度（実績）	令和13年度（目標）
小学校	99.0%	93.8%	100%
中学校	59.2%	57.1%	70%

- ・市内におけるブックスタートへの参加率

	令和元年度（実績）	令和2年度（実績）	令和13年度（目標）
参加率	55.26%	50.69%	60%

- ・読書ボランティアが活動している学校等の割合（年度当初に調査）

	令和2年度（実績）	令和3年度（実績）	令和13年度（目標）
小学校	94.8%	91.8%	95%
中学校	51.0%	51.0%	70%

情報を読み解く力を身に付けた子供

情報を自分で選択し、正しく理解して使うことは、情報化社会に生きる子供にとって大切な資質・能力です。また、情報を読み解く力を身に付けることは、より良く生きることや学習方法の幅を広げることにもつながると考えます。

令和元年度には、令和時代のスタンダードな学校像として全国一律のICT環境整備を目指す「GIGAスクール構想」が国から示され、新型コロナウイルス感染症への対応と併せて早急な整備が進められました。このような動きを視野にいれながら、多様な情報が溢れる生活の中で、子供一人一人が自分なりの解決方法を徐々に身に付け、質の高い情報活用能力を獲得できるよう、継続的に支援していきます。

「情報を読み解く力を身に付けた子供」の実現に向けた取組

家庭

- ・ 市立図書館で実施する「調べ学習講座」への参加
- ・ 図書館の資料を使って調べ学習を行い、結果をまとめた作品を市立図書館主催の「浜松市調べ学習コンクール」へ出品
- ・ 市立図書館資料の効果的な活用
- ・ 新聞等の購読

地域

- ・ 静岡県子ども読書アドバイザーによる活動支援
- ・ 「浜松市調べ学習コンクール」作品出品に向けた調査支援
- ・ 地域住民の自主研修による知識や技術の向上

図書館

- ・ 学校図書館支援センターの機能の充実
- ・ 学習支援パックの整備や内容充実、貸出促進
- ・ レファレンス機能を活かした資料提供
- ・ 授業支援カードを用いた学校への資料貸出
- ・ 「調べ学習の手引き」の配布（市内の全小学校3年生が対象）
- ・ 「調べ学習講座」の実施
- ・ 「浜松市調べ学習コンクール」の開催
- ・ 「おでかけ図書館」を活用した調べ学習の進め方指導
- ・ 専門的な知識を有する職員の育成及び配置
- ・ 学校図書館補助員を対象とした研修会や連絡会の開催
- ・ 中学生、高校生を対象とした「情報活用講座」の開催

学 校 等

教育活動における図書館及び図書資料を計画的に用いた調べ学習の取組
 学校図書館の充実（学校図書館オリエンテーション）

- ・地域資料や調べ学習に役立つ資料の収集
- ・学校図書館補助員の資質向上
- ・学校図書館の利用指導 等

司書教諭の配置促進
 市立図書館（学校図書館支援センター）との連携

- ・学習支援パックの利用
- ・授業に活用するための資料の相談
- ・授業支援カードを用いた図書館資料の借受
- ・「おでかけ図書館」を活用した調べ学習の進め方の指導
- ・学校図書館補助員の研修、連絡会への参加促進
- ・「調べ学習講座」「浜松市調べ学習コンクール」の周知、参加の推奨

指標

- ・自分で情報を選択し、正しく使えるようになったと答えた児童・生徒の割合（年度途中で調査）

	令和2年度（実績）	令和3年度（実績）	令和13年度（目標）
小学校	80.3%	87.1%	90%
中学校	69.1%	75.0%	80%

- ・学校における「学習支援パック」及び「授業支援カード」による貸出冊数

	令和元年度（実績）	令和2年度（実績）	令和13年度（目標）
学習支援パック	10,886冊	14,390冊	14,000冊
学習支援カード	4,351冊	6,918冊	6,000冊

- ・学校図書館についてのオリエンテーションを実施した学校の割合（年度当初に調査）

	令和2年度（実績）	令和3年度（実績）	令和13年度（目標）
小学校	調査なし	81.4%	100%
中学校	調査なし	69.4%	90%

- ・「浜松市調べ学習コンクール」への応募作品数

	令和元年度（実績）	令和2年度（実績）	令和13年度（目標）
応募校数	84校	88校	85校
応募作品数	3,017点	1,785点	3,000点

本を選ぶ力を身に付けた子供

子供の成長に、本との出会いは欠かせないものです。また、成長とともに自分の興味・関心に合った本を選ぶことができる力を身に付けることや、成長を促してくれる本を選び抜く力を育むことは、子供たちがより良く生きるために大変重要な要素だと考えます。

浜松市が目指す「本を選ぶ力」は、適した資料選択とともに、成長につながる読書の質の向上にも重点をおいています。そのような本を子供が選ぶことができるようになるためには、質の良い本と出会っていくことが必要です。その環境を整える家庭・地域・図書館・学校等の全ての大人の資質向上も併せて目指します。

「本を選ぶ力を身に付けた子供」

の実現に向けた取組

家庭	<ul style="list-style-type: none">・子供の発達段階に合わせた良質な本を市立図書館や学校等で借りて、読書環境を充実させる・小学校低学年くらいまでは読み聞かせなどで本の世界に触れる機会の充実・市立図書館で開催している保護者向け絵本講座（「パパ・ママ絵本講座」「あかちゃんのための絵本講座」等）や「子ども読書推進講演会」への参加・市立図書館などで発行している絵本リストなどを参考に、子供の発達段階に合った絵本や児童書を選択
地域	<ul style="list-style-type: none">・「子ども読書支援ボランティア」として活動するときは、子供の発達に合わせた質の良い本を選び、手渡すことを心がける・市立図書館で開催している「おでかけ絵本講座」「図書館読み聞かせボランティア養成講座」や「子ども読書推進講演会」への参加等による選書のスキルの向上・市立図書館などで発行している絵本リストを参考に、子供の発達段階に合った絵本や児童書を知り、子供読書支援活動に活用
図書館	<ul style="list-style-type: none">・専門職員の配置および資質向上・児童書、絵本の充実・保護者を対象とした各種絵本講座の開催・「図書館読み聞かせボランティア養成講座」の開催・学校からの資料相談（レファレンス受付）・学校図書館補助員研修会の開催・「おでかけ絵本講座」の実施・「子ども読書推進講演会」の開催・静岡県子ども読書アドバイザーとの連携

学 校 等	学校図書館の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校等における必読図書、推薦図書の選定 ・ 司書教諭及び学校図書館補助員による良質な児童書の選書 ・ 学校図書館補助員の研修受講の促進 ・ 教職員を対象とした研修の実施
	授業の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「おでかけ絵本講座」の利用 ・ 「おでかけおはなし会」の利用 ・ 学校図書館支援センターと連携し、授業で用いる資料や並行読書資料の選定、充実 推進体制の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員による資料選定等の研修体制の充実 ・ 保護者への働きかけ ・ 保護者を対象とした絵本を選ぶ大切さを伝える場の設定 ・ 団体貸出の利用

指標

- ・ 自分の興味、関心に合った本を選ぶことができるようになったと答えた児童・生徒の割合（年度途中で調査）

	令和2年度（実績）	令和3年度（実績）	令和13年度（目標）
小学校	89.5%	89.3%	95%
中学校	93.1%	94.1%	100%

- ・ 学校等の必読図書、推薦図書の設置割合（年度当初に調査）

	令和2年度（実績）	令和3年度（実績）	令和13年度（目標）
小学校	91.8%	88.7%	100%
中学校	20.4%	24.5%	50%
高等学校	60.0%	64.3%	70%

- ・ 市立図書館で開催する家庭向け絵本講座への参加数

	令和元年度（実績）	令和2年度（実績）	令和13年度（目標）
「パパ・ママ絵本講座」参加数	延べ16組（39人）	開催中止	45組
「あかちゃんのための絵本講座」参加数	77組（166人）	45組（107人）	80組

- ・ 子ども読書支援ボランティア向け講座への参加者数（おでかけ絵本講座の参加者数も含む）

	令和元年度（実績）	令和2年度（実績）	令和13年度（目標）
参加者数	延べ365人	延べ9人	延べ300人

読書を楽しみの一つとして選ぶ子供

本が身近にあり、日常的に手にすることが出来る環境は、本への関心を育み、読書へ導くきっかけとなります。また、本の読み聞かせを通して物語の世界や言葉の豊かさを味わうことで、その楽しさや魅力を知ることができ、やがて自ら読書する強い動機付けになります。

これらの環境を整えるために、購入または図書館から借りた本を子供の身近に置き、幼い時期から日常的な読み聞かせで読書の楽しさをたっぷり味わわせてあげる必要があります。人生がより豊かになるように、読書を楽しむことができる環境づくりを目指します。

「読書を楽しみの一つとして選ぶ子供」の実現に向けた取組

<p>家庭</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書の購入や借り受けにより家庭内に本を常設 ・ 保護者による読み聞かせの実施 ・ 「おはなし会」「えほんとわらべうたの会」などへの参加 ・ 保護者を対象とした講座への参加 ・ 「子ども読書推進講演会」等への参加 ・ 中学生図書館ボランティアの活動参加支援 ・ 図書館遠隔地における自動車文庫の利用
<p>地域</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童関連施設における図書コーナーの常設 ・ 地域ボランティアによる読み聞かせの実施 ・ 地域ボランティアによる図書館との連携 ・ 「おでかけ絵本講座」「図書館読み聞かせボランティア養成講座」の受講 ・ 「子ども読書推進講演会」への参加 ・ 自動車文庫の利用
<p>図書館</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料の充実（専門的な知識を持つ職員による選書と、提供に十分な数の新規購入） ・ 専門的職員の育成と資質向上 ・ おすすめ図書リストの作成と改訂 ・ 本の楽しさを伝える子供や保護者などを対象とした取組の充実 ・ 保護者向け絵本講座の開催 ・ 地域または図書館内で活動するボランティアを対象とした取組 ・ ボランティアの養成及び資質向上に資する講座の開催 ・ 市民を対象とした子供と子供の本について学ぶ機会の創出 ・ 特別な支援を要する子供や保護者を対象とした取組の充実 ・ 外国語を母語とする親子も楽しめる読み聞かせの会の開催 ・ 外国語絵本や児童書の充実 ・ 「中学生図書館ボランティア」の積極的な受け入れ ・ 資料を効果的に届ける自動車文庫の活用推進

学 校 等

読書活動の推進

- ・読み聞かせやブックトークなどを通して、読書のきっかけを作る
 - ・学級文庫、園文庫の設置
 - ・教職員から子供たちへ、また、子供同士で本を紹介する機会の充実
 - ・朝読書や読み聞かせ等、全校での読書活動の充実
 - ・「子ども読書の日」や「読書週間」などにおける読書啓発活動への取組
 - ・必読図書や推薦図書の位置付け
 - ・学校図書館における蔵書の質・量の充実
 - ・図書委員会等の活動推進
- 授業等での取組の充実（授業における学校図書館の利用促進）
- ・物語教材等の単元における本の紹介や並行読書の充実
 - ・「おでかけ図書館」「おでかけおはなし会」等の活用
 - ・家庭との連携による継続的な読書活動の推進
 - ・「団体貸出」や「自動車文庫」を利用した図書コーナーの絵本等の充実

指標

・読書を好きだと答えた児童・生徒の割合（年度途中で調査）

	令和2年度（実績）	令和3年度（実績）	令和13年度（目標）
小学校	90.8%	94.3%	100%
中学校	85.1%	83.7%	90%

・学校の授業以外に、普段（月曜から金曜日）、読書をする児童・生徒の割合（全国学力状況調査結果より）

	令和元年度（実績）	令和2年度（実績）	令和13年度（目標）
小学校 6年生	82.6%	調査なし	90%
中学校 3年生	73.9%	調査なし	80%

※実績として「全く読書をしない」と答えた児童・生徒以外を抽出

・高等学校における授業で積極的に学校図書館を活用している割合

	令和元年度（実績）	令和2年度（実績）	令和13年度（目標）
高等学校	46.7%	57.1%	70%

・特別支援学校、発達支援学級における「おでかけおはなし会」の利用回数及び参加者数

	令和元年度（実績）	令和2年度（実績）	令和13年度（目標）
利用回数	26回	5回	25回
参加者数	315人	45人	300人

4 一人一人の読書環境を支える取組

(1) 外国にルーツをもつ子供（保護者）への読書活動支援

- ・ 自らのルーツの認識と母語の保持に資する外国語資料の収集と提供

市立図書館や学校図書館において、英語やポルトガル語などの資料の充実を図り、外国語を母語とする子供たちへ提供することで、読書の楽しさを伝えます。

- ・ 外国にルーツをもつ保護者に向けた働きかけ

市立図書館で実施している「外国語の通訳付きブックスタート」の実施や外国語絵本の所蔵について周知するとともに、家庭での読み聞かせの大切さを伝えます。

- ・ 日本語の習得に役立つ資料の収集

市立図書館や学校図書館で、絵本や多読資料など日本語の読み書き向上に役立つ図書の充実に努めます。

- ・ 母語による絵本の読み聞かせを実施

市立図書館で行う「いろいろな国のことばのおはなし会」など、母語による読書の楽しみを味わう場を設けます。

(2) 読むことに困難さを抱える子供への読書活動支援

- ・ 子供の一人一人の個性に適した、様々な形態の資料の収集と提供（図書館・学校等）

通常の活字版の資料活用が難しい子供のために、ユニバーサル絵本やLLブック、マルチメディアデージー図書などの充実に努めます。

- ・ 特別支援学校や発達支援学級、通級指導教室等での読み聞かせ活動の推進

通常の学校生活や学びに困難さを抱える子供たちが、読書の楽しさを体験できるよう、市立図書館と学校等が連携し、「おでかけ図書館」「おでかけおはなし会」などを利用して絵本の読み聞かせの推進に努めます。

(3) 中山間地域など遠隔地に住む子供への読書支援

- ・ 自動車文庫を活用した資料の提供

市立図書館からの距離が遠く、利用することが難しい地域に自動車文庫が出向き、身近な配本所で貸出・返却ができる環境を整え、本に接する機会を増やします。

- ・ 図書資料のセット貸出

市立図書館まで距離が遠い北遠地域等には、おすすめの本を発達段階ごとセットにして小学校へ貸し出し、身近に本に触れることができる環境整備に努めます。

(4) 電子図書を取り入れた読書活動支援

- ・ 外国籍の子供への提供

文字の読み上げ機能などが付いた電子図書は、日本語の習得に困難さを抱える方にとって、読書を気軽に楽しめる有効な手段です。市立図書館で提供している「はままつ電子図書」を活用し、外国にルーツをもつ子供たちやその保護者の読書活動支援に努めます。

- ・ 読むことに困難さを抱える子供への提供

文字の読み上げや文字の拡大・反転の機能は、読むことに困難さを抱える子供たちの活動の支援として効果的です。読書推進につなげられるツールとして有効な、マルチメディアダイジー図書などの電子図書の充実を図ります。

- ・ 中学生や高校生への提供

個人差はあるものの、全国的な調査により活字による読書から一時的に離れる年代として中学生・高校生期が挙げられます。その対象期の生徒に対して、タブレット等の情報機器を活用した読書環境づくりを視野に入れて取組を推進します。特に、場所を選ばず読書ができる電子図書は、読書に親しむ一つの有効な手段と考えられます。情報活用能力の向上に対しても、様々な読書体験を通して取組が行えるよう、コンテンツの充実と提供に努めます。

5 地域、図書館、学校等の連携による子供の読書活動の推進

(1) 市立図書館における連携

・読み聞かせボランティアとの連携

幼稚園や保育園、小・中学校で活動する読み聞かせボランティアが、作品の特性や良さを子供たちに伝え、読書の楽しさを味わわせてあげられるよう、人材育成及び活動強化に向けて、支援、連携を図っていきます。

・公立図書館間の情報ネットワークの活用

県内外の検索システムを活用し、市内図書館で所蔵していない資料は県内の他の図書館から取り寄せ、迅速に提供していきます。また、県内で所蔵のない本は、県外の図書館から取り寄せて提供します。

・他の機関や市の関係課との連携

科学館や博物館、美術館及び市の関係課と連携し、子供に有用な情報を提供していきます。

・子供読書支援活動に関わる人への働きかけ

県立中央図書館にある「子ども図書研究室」や県内の他の公立図書館と協力して、子供の読書支援活動に関わる人達へ研修の機会を提供していきます。

(2) 学校における連携

・家庭・地域との連携

学校図書館においては、司書教諭、学校図書館補助員を中心にして、保護者や地域ボランティアの協力を得て、読み聞かせや本の整備、掲示物の作成等の活動を充実するよう努めます。

・学校間での連携

各校では、学校図書館図書管理システムの検索機能を活用し、近隣の学校間での図書資料の貸し借りによる有効活用に努めます。

(3) 市立図書館と学校図書館との連携

・「学校と市立図書館連携のための検討委員会」の定期的な開催

浜松市教育委員会から推薦された小・中学校教職員と市立図書館の児童サービス担当職員、教育委員会指導主事などが集まり、授業支援パックの選書内容や学校図書館支援センターの活用について検討し、サービスの質の向上に努めます。

・「学校図書館支援センター」を拠点とした連携・支援

子供の実態に合わせた図書資料の選定や、授業で必要な資料の提供に向けて、相談業務を充実させます。また、市内の各図書館や教育委員会と連携を図り、研修会や連絡会を開催することで、学校図書館の充実も図ります。

6 推進・支援体制の整備等

(1) 関係課、関連施設との連携

教職員や市立図書館職員の研修会において、本計画の趣旨を周知し、計画の確実な推進に努めるとともに、関係課との連携や関連施設での情報交換を引き続き行なっていきます。

(2) 浜松市子ども読書活動推進会議の開催

平成 19 年度に発足した「浜松市子ども読書活動推進会議」において、推進計画の進捗状況を確認するとともに、新たな施策について検討してきました。今後は、本計画を基に目指す子供の姿の実現に向け、主体的な会議・運営を行っていきます。

(3) 啓発・広報等

市立図書館では、ホームページで図書館の利用方法や事業のお知らせ、図書の予約等を行なっています。さらにこのような情報ツールを活用し、子供の読書に関する情報や学校・各種団体との連携事業について、広く情報提供をしていきます。

ホームページの他、広報誌や SNS といった多様な情報伝達手段を活用することにより、子供の読書活動を幅広く市民に理解していただくよう努めます。

参考資料

- 1 統計
- 2 アンケート調査結果（概要）
 - ① 令和2年度 第1回 浜松市広聴モニターアンケート調査結果の概要
 - ② 令和2年度 浜松市「ブックスタート」についてのアンケート調査結果の概要
 - ③ 令和2年度 浜松市立図書館「多文化サービス」についてのアンケート調査結果の概要
 - ④ 令和2年度 浜松市立図書館「特別な支援を要する子供たちの読書活動」についてのアンケート調査結果の概要
- 3 浜松市立図書館の所在地と連絡先
- 4 浜松市子ども読書活動推進会議委員等名簿

統計

市立図書館	令和元年度実績	令和2年度実績
市立図書館の児童向け図書等蔵書冊数（12歳以下の子ども一人当たり）	7.01冊	7.21冊
市立図書館の児童向け図書等：新規購入冊数（年間）	16,207冊	14,626冊
市立図書館の利用者カード登録率・就学前（0～6歳）	40.03%	38.88%
・小学生（7～12歳）	49.98%	46.42%
・中学生（13～15歳）	37.97%	36.29%
・高校生（16～18歳）	24.80%	23.85%
市立図書館 年間貸出冊数・12歳以下の子供	(登録者一人当たり)27.67冊 (人口一人当たり)12.43冊	(登録者一人当たり)26.08冊 (人口一人当たり)11.12冊
市立図書館 年間貸出冊数・18歳以下の子供	(登録者一人当たり)22.43冊 (人口一人当たり)9.04冊	(登録者一人当たり)21.09冊 (人口一人当たり)8.09冊
子ども読書支援ボランティア向け講座の開催数	20回	1回
「おはなし会」「えほんとわらべうたの会」開催数	おはなし会 532回 えほんとわらべうた 634回 特別おはなし会 71回	おはなし会 0回 えほんとわらべうた 33回 特別おはなし会 2回
「おでかけ絵本講座」の開催数及び参加者数	開催数 19回 参加者数 778人	開催数 4回 参加者数 48人
「おでかけ図書館」の開催数及び参加者数	開催数 5回 参加者数 226人	開催数 8回 参加者数 385人
学校等における自動車文庫の貸出冊数及び利用施設数	利用冊数 17,204冊 利用施設数 51	利用冊数 19,605冊 利用施設数 60
「学習支援パック」貸出冊数	10,886冊	14,390冊
「授業支援カード（レファレンスを受けた貸出）」貸出冊数	4,351冊	6,918冊

学校図書館	令和元年度実績	令和2年度実績
学校図書館の新規購入冊数（児童・生徒一人当たり：年間）	小学校 0.72冊 中学校 1.01冊	小学校 0.75冊 中学校 1.01冊
図書標準 ¹⁴ を達成している学校の割合	小学校 83.3% 中学校 35.4%	小学校 82.3% 中学校 35.4%
学校図書館 年間貸出冊数（児童・生徒一人当たり）	小学校（低学年） 33.67冊 （中学年） 25.21冊 （高学年） 20.96冊	小学校（低学年） 30.14冊 （中学年） 24.42冊 （高学年） 17.97冊
	中学校 6.67冊	中学校 5.73冊
	高等学校 2.09冊	高等学校 1.97冊
学校図書館補助員を配置している学校の割合（公立小・中学校）	100%	100%

¹⁴ 「学校図書館図書標準」公立義務教育諸学校の学校図書館に整備すべき蔵書の標準を、学級数に応じて定めたもの。

令和2年度 第1回 浜松市広聴モニターアンケート調査結果の概要

1 調査目的

市政の課題等について、迅速に市民ニーズを把握し、市政へ反映するため

2 調査事項

- (1) 子供の読書について (市民部 中央図書館)
- (2) 市税の納付方法について (財務部 税務総務課)
- (3) 住宅用火災警報器について (消防局 予防課)

3 調査実施概要

- (1) 調査地域 浜松市内
- (2) 調査対象 広聴モニター223人
- (3) 調査方法 質問紙郵送法及びインターネット回答
- (4) 調査期間 令和2年6月9日～6月23日

4 回収状況、有効回収率 214人(96.0%)

■ 回答者の居住区 (N=214)



居住区	人数	割合
中区	55人	25.7%
東区	36人	16.8%
西区	30人	14.0%
南区	26人	12.1%
北区	23人	10.7%
浜北区	27人	12.6%
天竜区	17人	7.9%

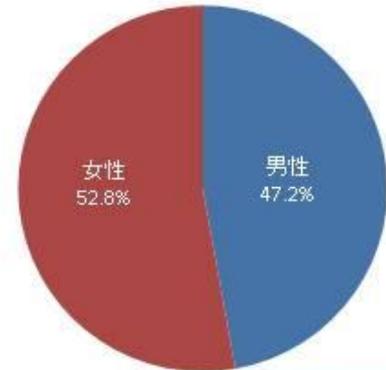
■ 回答者の世代 (N=214)



世代	年齢	人数	割合
若者	18歳～34歳	55人	25.7%
子育て	35歳～49歳	69人	32.2%
中高年	50歳～64歳	47人	22.0%
高齢者	65歳～79歳	43人	20.1%

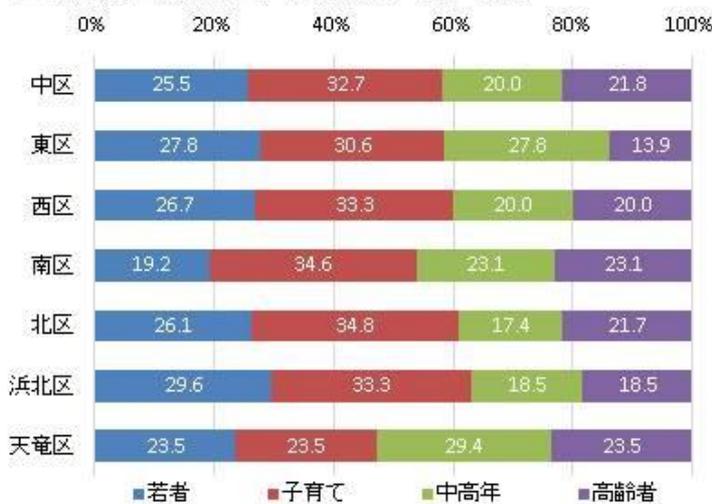


■ 回答者の性別 (N=214)



性別	人数	割合
男性	101人	47.2%
女性	113人	52.8%

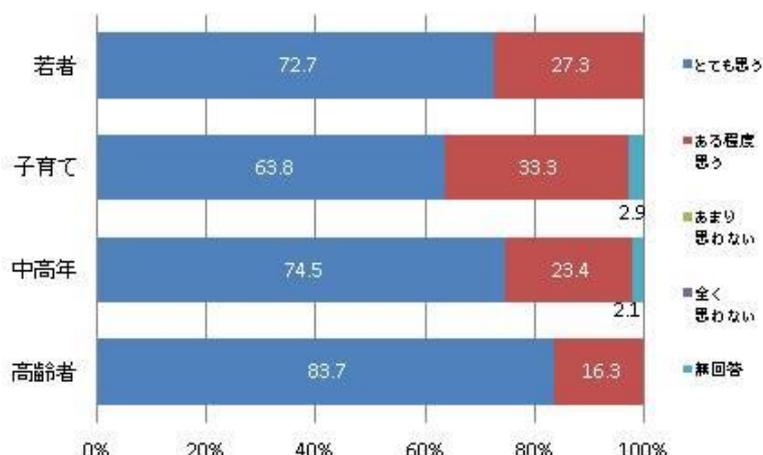
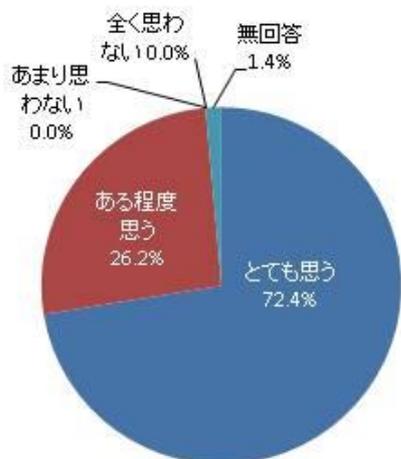
■ 行政区別の世代構成比 (N=214)



※比率はすべて百分率(パーセント)で表し、小数点以下第2位を四捨五入しています。このため、比率の合計が100%にならない場合があります。

<子供の読書について>

■ 問1 子供(0~18歳)の成長、発達において、読書が必要だと思うか (N=214)



- 子供(0~18歳)の成長、発達において、読書が必要だと思うかについては、「とても思う」が約7割と最も多い回答となっています。
- 世代別にみると、若者・中高年の約7割、子育ての約6割、高齢者の約8割が「とても思う」と回答しています。

■ 問2 読書が必要だと思う理由 (N=211 複数回答) (問1で「1 とても思う」「2 ある程度思う」と回答した方)

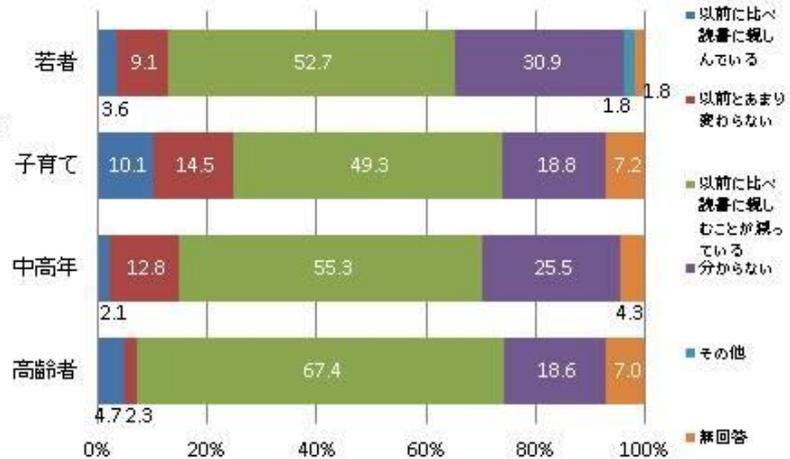
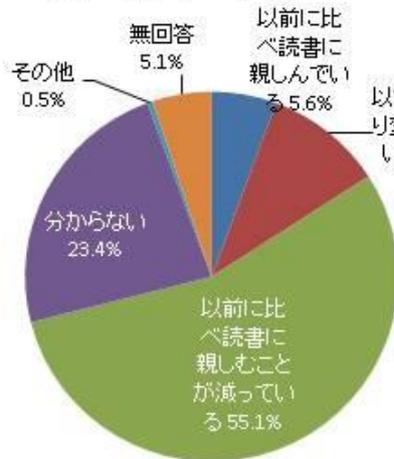


■ その他意見

- ・感性を育てる
- ・容観的な見方ができる
- ・自己肯定感を得られる
- ・文字(漢字)を覚える

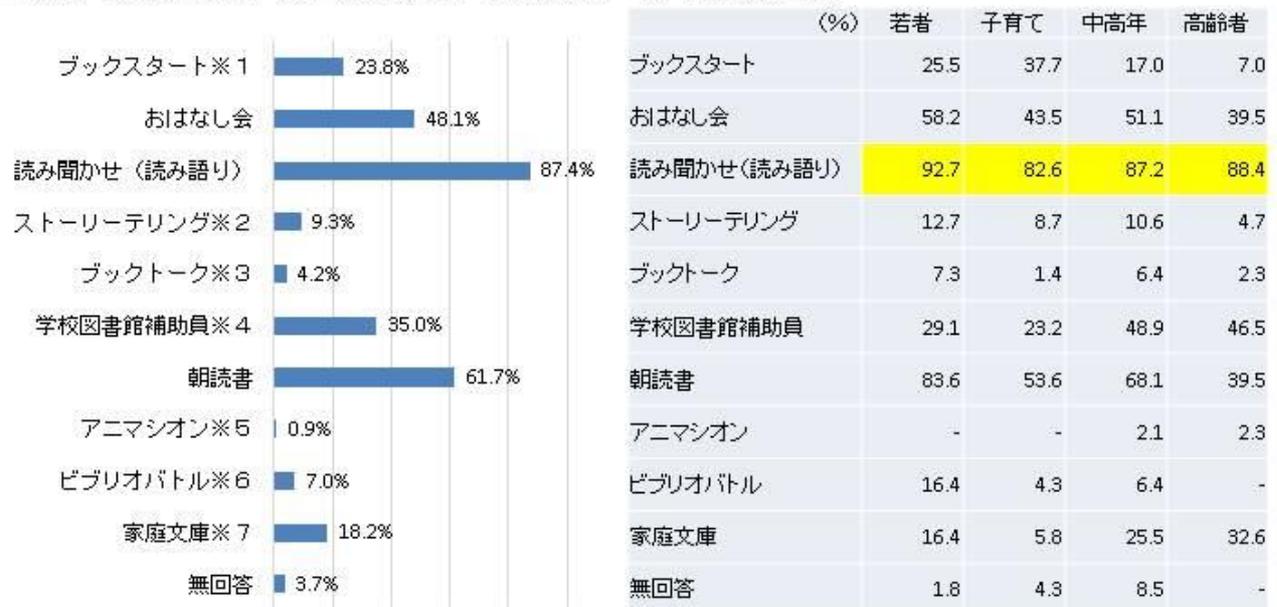
- 読書が必要だと思う理由については、「文章や言葉に親しむことで、読解力や表現力を育むから」が約8割と最も多い回答となっています。
- 世代別にみると、若者・子育てでは「文章や言葉に親しむことで、読解力や表現力を育むから」が、中高年では「知的好奇心を育み、新たな知識を獲得できるから」が、高齢者では「作品に親しむことで、思考力や想像力を育むから」が最も多い回答となっています。

■ 問3 近年の子供たちの読書傾向をどう思うか (N=214)



- その他意見
 - ・オンライン上での読書は増えている
- 近年の子供たちの読書傾向をどう思うかについては、「以前に比べ読書に親しむことが減っている」が約6割と最も多い回答となっています。
- 世代別にみても、全ての世代で「以前に比べ読書に親しむことが減っている」が最も多い回答となっています。

■ 問4 読書に関する言葉と内容の認知度 (N=214 複数回答)



- ※1 ブックスタート: 赤ちゃんと保護者に絵本や子育て情報などが入ったブックスタートバックを手渡し、絵本を通じて心触れ合うきっかけをつくる活動
- ※2 ストーリーテリング: 音話などをテキストを見ずに語ること
- ※3 ブックトーク: ひとつのテーマに沿って興味を湧くように選んだ本を紹介すること
- ※4 学校図書館補助員: 学校図書館の整備および運営の補助のために浜松市が独自に配置している担当者
- ※5 アニメーション: ゲーム的な手法を通して、子供たちに本の内容に興味をもたせ、物語の世界に引き込むことをねらいとした取り組み
- ※6 ビブリオバトル: 発表参加者が持ち寄った本を紹介した後、他の参加者も加わって発表に関するディスカッションを行い、その後の投票により一番読みたい本を決める取り組み
- ※7 家庭文庫: 地域の子供たちのために自宅を開放し、所有している本の貸出などを行う私設図書館

- 読書に関する言葉と内容の認知度については、「読み聞かせ(読み語り)」が約9割と最も多い回答となっています。
- 世代別にみても、全ての世代で「読み聞かせ(読み語り)」が最も多い回答となっています。

■ 問5 子供たちがより読書に親しむために必要な環境や取り組み (N=214 複数回答)



■ その他意見

- ・地域に書店があること
- ・親子で図書館を利用
- ・読書でポイント制度

- 子供たちがより読書に親しむために必要な環境や取り組みについては、「学校での読書環境の整備」が約7割で最も多い回答となっており、次いで「家庭での保護者からの働きかけ」も約7割となっています。
- 世代別にもみると、若者・子育て・中高年で「学校での読書環境の整備」が、高齢者では「家庭での保護者からの働きかけ」が最も多い回答となっています(中高年では「家庭での保護者からの働きかけ」も同率)。

■ 問6 子供たちがより読書に親しむために必要な家庭での働きかけ (N=149 複数回答)
(問5で「1 家庭での保護者からの働きかけ」と回答した方)



■ その他意見

- ・保護者自身が本を読む姿を子供に見せる
- ・子供と同じ時間に本を読む
- ・本を読むことをほめる

- 子供たちがより読書に親しむために必要な家庭での働きかけについては、「幼少期の読み聞かせ」が約9割と最も多い回答となっています。
- 世代別にもみても、全ての世代で「幼少期の読み聞かせ」が最も多い回答となっています。

令和2年度浜松市「ブックスタート」についてのアンケート調査結果の概要

1 調査目的

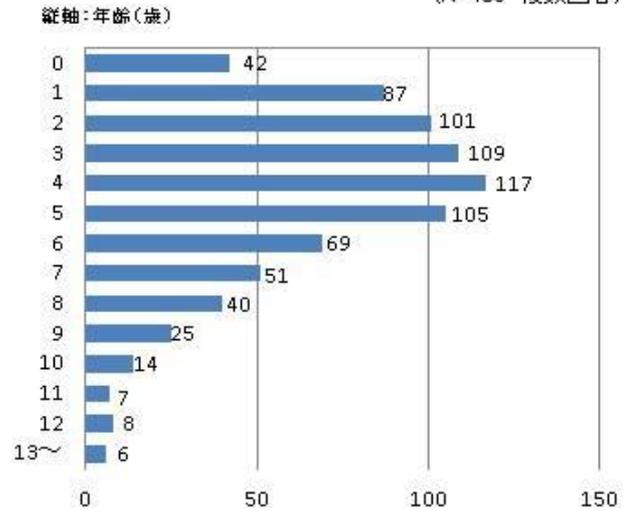
ブックスタート事業が、どの程度市民に周知されて参加に結びついているか、そして、その後の読書に結びついているかを把握するため

2 調査実施概要

- (1) 調査地域および対象
市内7つの保育園(各区1園ずつ)に在園する子の保護者 計439人
- (2) 調査方法 保育園を通じた質問紙の配布、回収
- (3) 調査期間 令和2年5月～6月

問1 子供さんは何歳ですか？

(N=439 複数回答)



問2 ブックスタートに参加しましたか？

(N=439)

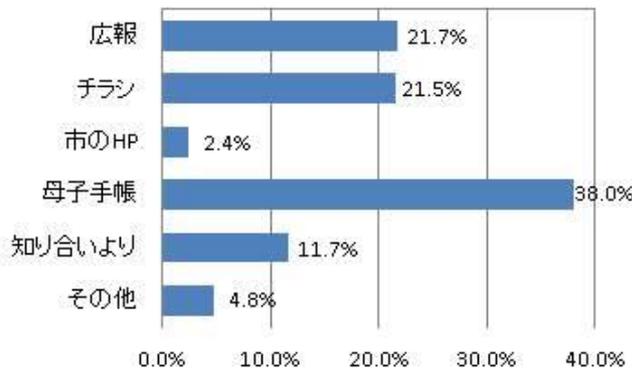
横軸：人数(人)



参加	割合	人数
はい	66.1%	290人
いいえ	33.9%	149人

問3(1) ブックスタートを何で知りましたか？ (問2で「はい」と回答した方)

(N=290 複数回答)



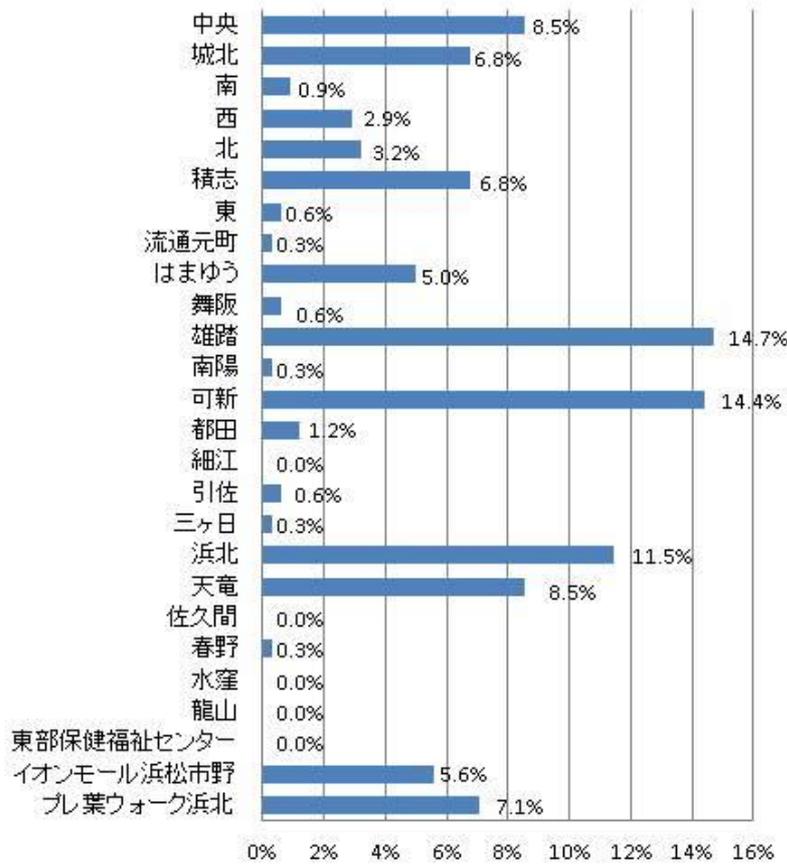
広報媒体	割合	人数
広報	21.7%	100人
チラシ	21.5%	99人
市のHP	2.4%	11人
母子手帳	38.0%	175人
知り合いより	11.7%	54人
その他	4.8%	22人

■ その他回答

- ・親子すこやか相談・母親教室・検診時の案内
- ・母子手帳交付時に区役所の保健師から
- ・小児科医より子育て支援センター・新生児訪問

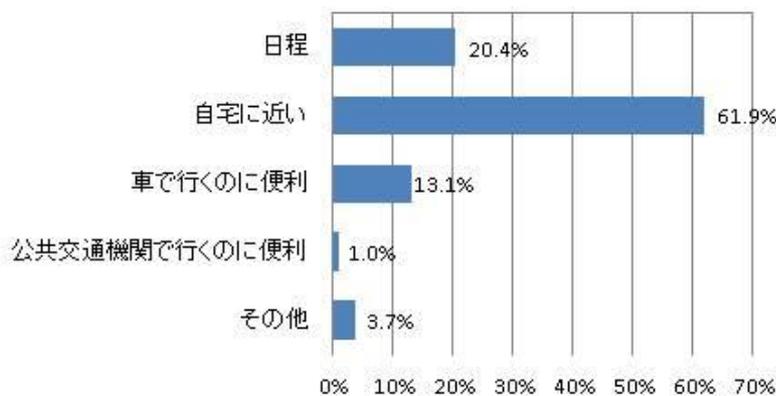
※比率はすべて百分率(パーセント)で表し、小数点以下第2位を四捨五入しています。このため、比率の合計が100%にならない場合があります。

■ 問3(2) どの会場で受けましたか？ (N=290 複数回答)
(問2で「はい」と回答した方)



施設名	割合	人数
中央	8.5%	29人
城北	6.8%	23人
南	0.9%	3人
西	2.9%	10人
北	3.2%	11人
積志	6.8%	23人
東	0.6%	2人
流通元町	0.3%	1人
はまゆう	5.0%	17人
舞阪	0.6%	2人
雄踏	14.7%	50人
南陽	0.3%	1人
可新	14.4%	49人
都田	1.2%	4人
細江	0.0%	0人
引佐	0.6%	2人
三ヶ日	0.3%	1人
浜北	11.5%	39人
天竜	8.5%	29人
佐久間	0.0%	0人
春野	0.3%	1人
水窪	0.0%	0人
龍山	0.0%	0人
東部保健福祉センター	0.0%	0人
イオンモール浜松市野	5.6%	19人
プレ葉ウォーク浜北	7.1%	24人

■ 問3(3) 会場を選んだ理由はなんですか？ (N=290 複数回答)
(問2で「はい」と回答した方)

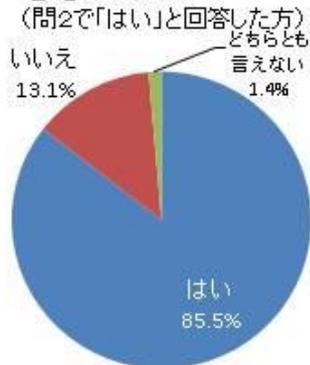


理由	割合	人数
日程	20.4%	78人
自宅に近い	61.9%	237人
車で行くのに便利	13.1%	50人
公共交通機関で行くのに便利	1.0%	4人
その他	3.7%	14人

■ その他回答

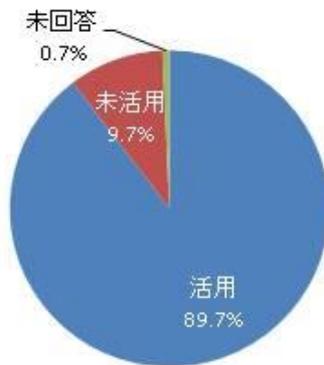
- ・日曜日実施の会場・買い物ついでに
- ・コロナ禍で中央しか選べなかった・実家の近く
- ・友人との調整で・行った事のある図書館だった
- ・きれいな図書館だったから

■ 問3(4) 参加以降、自宅での読み聞かせやわらべうた遊びを楽しむことが
増えましたか？ (N=290)



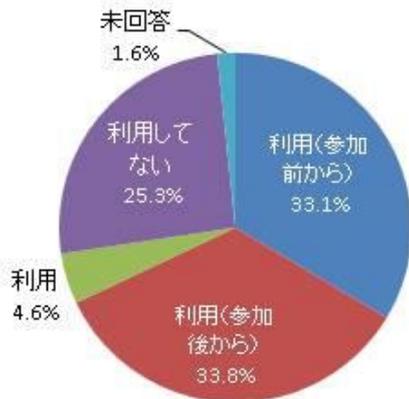
回答	割合	人数
はい	85.5%	248人
いいえ	13.1%	38人
どちらとも言えない	1.4%	4人

■ 問3(5) ブックスタートの配布物を活用していますか？ (N=290)



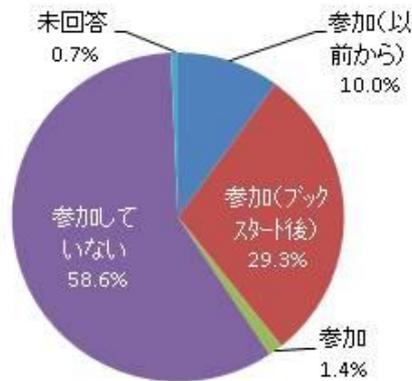
回答	割合	人数
活用している	89.7%	260人
活用していない	9.7%	28人
未回答	0.7%	2人

■ 問3(6) 図書館を利用していますか？ (N=290)



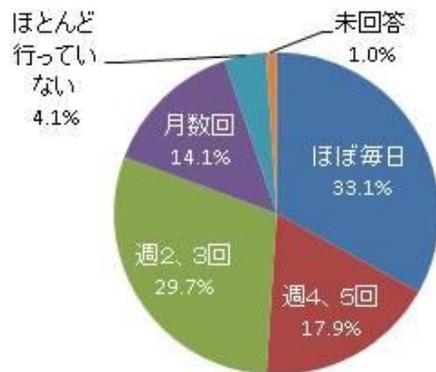
参加の有無	割合	人数
利用(参加前から)	33.1%	96人
利用(参加後から)	33.8%	98人
利用	4.6%	14人
利用していない	25.3%	77人
未回答	1.6%	5人

■ 問3(7) 図書館のおはなし会に参加したことはありますか？ (N=290)
 (問2で「はい」と回答した方)



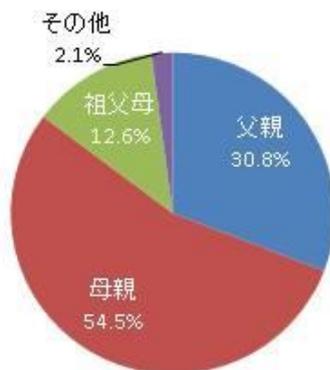
参加の有無	割合	人数
参加(以前から)	10.0%	29人
参加(ブックスタート後)	29.3%	85人
参加	1.4%	4人
参加していない	58.6%	170人
未回答	0.7%	2人

■ 問3(8)ア 家庭での読み聞かせは、どのくらい行っていますか？ (N=290)
 (問2で「はい」と回答した方)



頻度	割合	人数
ほぼ毎日	33.1%	96人
週4、5回	17.9%	52人
週2、3回	29.7%	86人
月数回	14.1%	41人
ほとんど行っていない	4.1%	12人
未回答	1.0%	3人

■ 問3(8)イ 家庭での読み聞かせは、誰が行っていますか？ (N=290 複数回答)
 (問2で「はい」と回答した方)

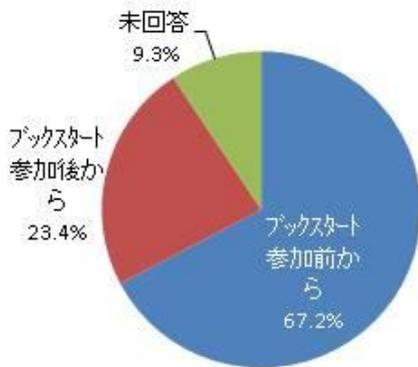


誰が	割合	人数
父親	30.8%	159人
母親	54.5%	281人
祖父母	12.6%	65人
その他	2.1%	11人

■ その他回答

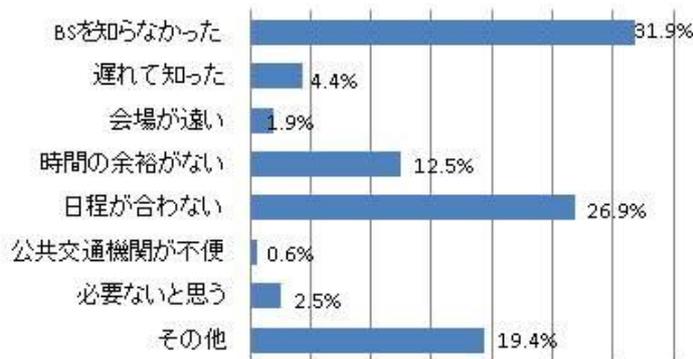
・お兄ちゃんやお姉ちゃんが下の子に

■ 問3(8)ウ いつ頃から読み聞かせを始めましたか？ (N=290)
(問2で「はい」と回答した方)



開始時期	割合	人数
ブックスタート参加前から	67.2%	195人
ブックスタート参加後から	23.4%	68人
未回答	9.3%	27人

■ 問4(1) ブックスタートに参加しなかったのはなぜですか？ (N=149 複数回答)
(問2で「いいえ」と回答した方)



理由	割合	人数
ブックスタートを知らなかった	31.9%	51人
遅れて知った	4.4%	7人
会場が遠い	1.9%	3人
時間の余裕がない	12.5%	20人
日程が合わない	26.9%	43人
公共交通機関が不便	0.6%	1人
必要ないと思う	2.5%	4人
その他	19.4%	31人

※グラフでは、ブックスタートをBSと表示しています

■ その他回答

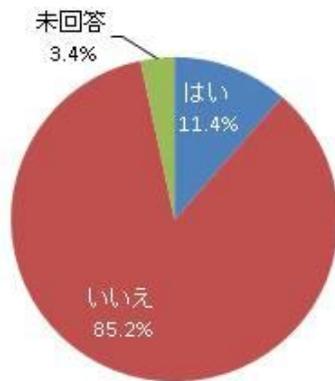
- ・コロナによる中止で忘れていた
- ・市外に住んでいたため

■ 問4(2) 図書館を利用していますか？ (N=149)
(問2で「いいえ」と回答した方)



回答	割合	人数
はい	25.5%	38人
いいえ	70.5%	105人
未回答	4.0%	6人

■ 問4(3) 図書館のおはなし会に参加したことはありますか？ (N=149)
(問2で「いいえ」と回答した方)



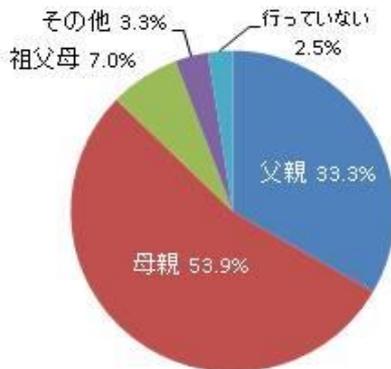
回答	割合	人数
はい	11.4%	17人
いいえ	85.2%	127人
未回答	3.4%	5人

■ 問4(4)ア 家庭での読み聞かせは、どのくらい行っていますか？ (N=149)
(問2で「いいえ」と回答した方)



頻度	割合	人数
ほぼ毎日	40.8%	41人
週4、5回	5.6%	20人
週2、3回	2.4%	3人
月数回	16.0%	32人
ほとんど行っていない	34.4%	15人
未回答	0.8%	3人

■ 問4(4)イ 家庭での読み聞かせは、誰が行っていますか？ (N=149 複数回答)
(問2で「いいえ」と回答した方)



誰が	割合	人数
父親	33.3%	81人
母親	53.9%	131人
祖父母	7.0%	17人
その他	3.3%	8人
行っていない	2.5%	6人

■ その他回答

- ・お兄ちゃんやお姉ちゃんが下の子に
- ・曾祖父母

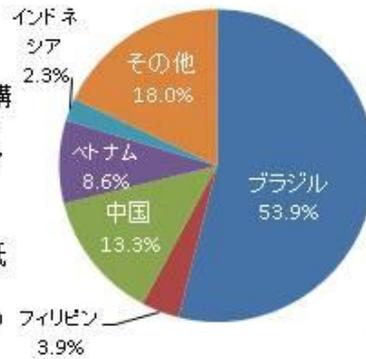
令和2年度浜松市立図書館「多文化サービス」についてのアンケート調査結果の概要

1 調査目的

浜松市内に居住する外国人市民の読書や図書館に対する意識を探り、今後の多文化サービスの取り組みの参考とするため

■ 回答者の国籍または出身国 (N=127)

国	割合	人数
ブラジル	53.9%	69人
フィリピン	3.9%	5人
中国	13.3%	17人
ベトナム	8.6%	11人
インドネシア	2.3%	3人
その他	18.0%	22人



その他:
ペルー 16人、韓国 3人
イギリス 1人、インド 1人
ネパール 1人

2 調査実施概要

(1) 調査地域および対象

浜松市外国人学習支援センター・日本語教室受講生、浜松市外国人子ども教育支援センター・母語教室参加者の保護者、外国人図書館ボランティアほか 計127人

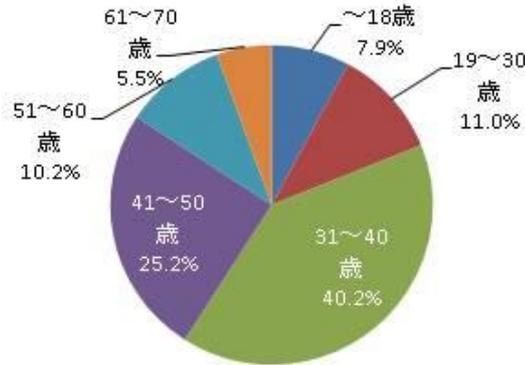
(2) 調査方法

- ・個人の対象者には、直接または郵送での質問紙の配布、回収
- ・上記教室の受講生または保護者には、教室での調査票の配布、回収

(3) 調査期間

令和2年7月～9月

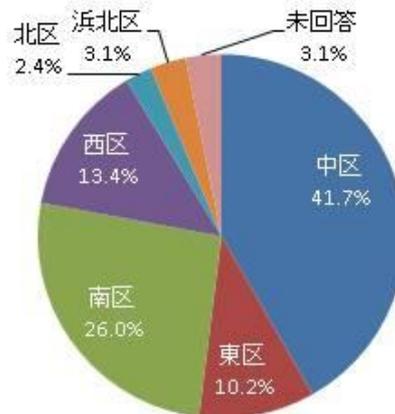
■ 回答者の年齢構成 (N=127)



年齢	割合	人数
～18歳	7.9%	10人
19～30歳	11.0%	14人
31～40歳	40.2%	51人
41～50歳	25.2%	32人
51～60歳	10.2%	13人
61～70歳	5.5%	7人
71歳～	0%	0人

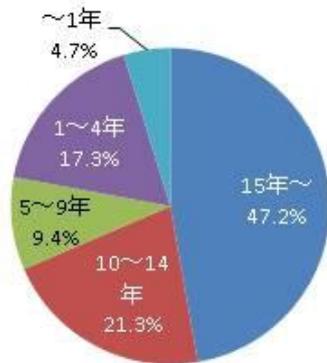
■ 回答者の居住地 (N=127)

居住地	割合	人数
中区	41.7%	53人
東区	10.2%	13人
南区	26.0%	33人
西区	13.4%	17人
北区	2.4%	3人
浜北区	3.1%	4人
天竜区	0.0%	0人
未回答	3.1%	4人



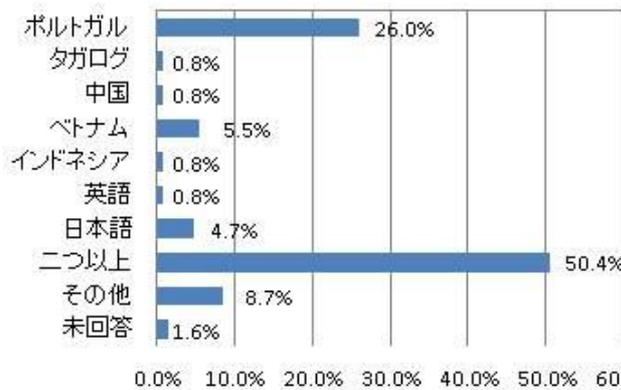
※比率はすべて百分率(パーセント)で表し、小数点以下第2位を四捨五入しています。このため、比率の合計が100%にならない場合があります。

■ 回答者の在留期間 (N=127)



在留期間	割合	人数
15年～	47.2%	60人
10～14年	21.3%	27人
5～9年	9.4%	12人
1～4年	17.3%	22人
～1年	4.7%	6人

■ 回答者が普段話している言語 (N=127)

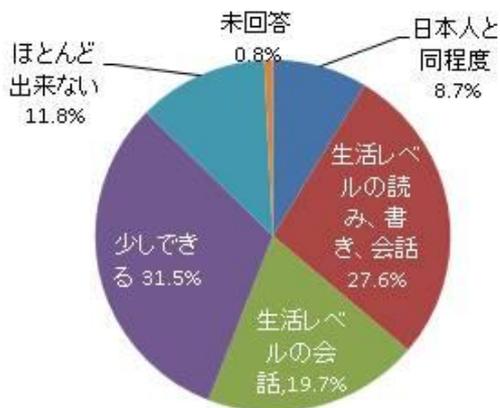


言語	割合	人数
ポルトガル	26.0%	33人
タガログ	0.8%	1人
中国	0.8%	1人
ベトナム	5.5%	7人
インドネシア	0.8%	1人
英語	0.8%	1人
日本語	4.7%	6人
二つ以上	50.4%	64人
その他	8.7%	11人
未回答	1.6%	2人

【二つ以上の内訳】
 ポルトガル語と英語:2、
 ポルトガル語と英語と日本語:5、
 ポルトガル語と日本語:21、
 ポルトガル語とスペイン語:3、
 ポルトガル語とスペイン語と日本語:3、
 タガログ語と英語:3、
 タガログ語と英語と日本語:2、
 中国語と日本語:10、
 中国語と英語と日本語:1、
 ベトナム語と日本語:3、
 スペイン語と日本語:2、
 インドネシア語と英語:1、
 インドネシア語と日本語:1、
 ネパール語と英語と日本語:1、
 韓国語と日本語:2、
 不明:4

その他:スペイン語、
 ヒンディー語、テルグ語

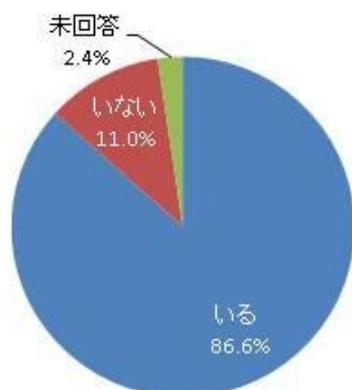
■ 回答者の日本語レベル (N=127)



日本語レベル	割合	人数
日本人と同程度	8.7%	11人
生活レベルの読み、書き、会話	27.6%	35人
生活レベルの会話	19.7%	25人
少しできる	31.5%	40人
ほとんど出来ない	11.8%	15人
未回答	0.8%	1人

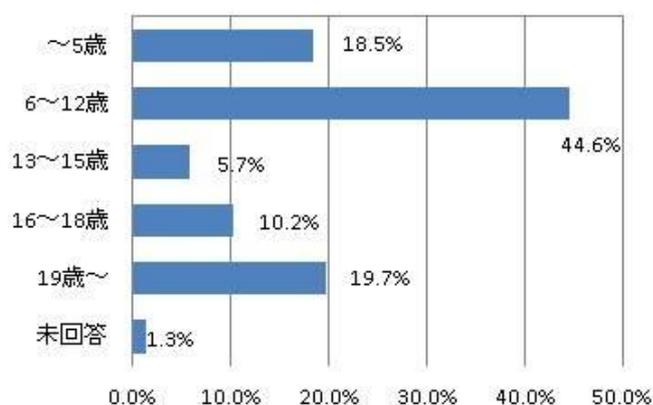
<子供の読書について>

■問1 子供さんはいますか？ (N=127)



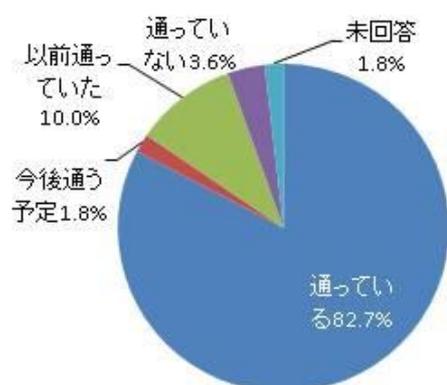
回答	割合	人数
いる	86.6%	110人
いない	11.0%	14人
未回答	2.4%	3人

■問2 子供さんは何歳ですか？ (N=110 複数回答) (問1で「いる」と回答した方)



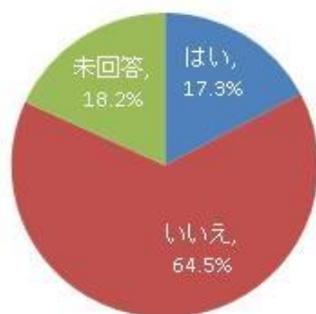
子供の年齢	割合	人数
~5歳	18.5%	29人
6~12歳	44.6%	70人
13~15歳	5.7%	9人
16~18歳	10.2%	16人
19歳~	19.7%	31人
未回答	1.3%	2人

■問3 子供さんは日本の学校に通っていますか？ (N=110) (問1で「いる」と回答した方)



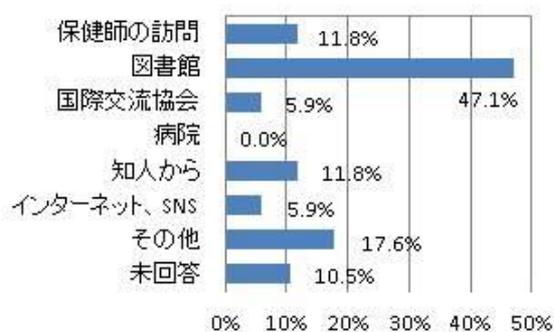
登校について	割合	人数
通っている	82.7%	91人
今後通う予定	1.8%	2人
以前通っていた	10.0%	11人
通っていない (予定無しも含む)	3.6%	4人
未回答	1.8%	2人

■ 問4 ブックスタートに参加しましたか？ (N=110)



参加の有無	割合	人数
はい	17.3%	19人
いいえ	64.5%	71人
未回答	18.2%	20人

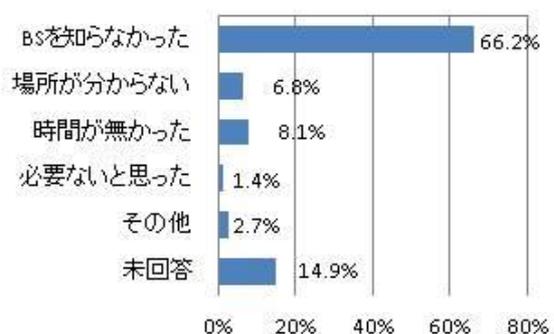
■ 問4(1) ブックスタートをどのようにして知りましたか？ (N=19 複数回答可)
(問4で「はい」と答えた方)



知ったきっかけ	割合	人数
保健師の訪問	11.8%	2人
図書館	47.1%	8人
国際交流協会	5.9%	1人
病院	0.0%	0人
知人から	11.8%	2人
インターネット、SNS	5.9%	1人
その他	17.6%	3人
未回答	10.5%	2人

その他:まつっこ教室

■ 問4(2) ブックスタートに参加しなかった理由は何ですか？ (N=71 複数回答可)
(問4で「いいえ」と答えた方)



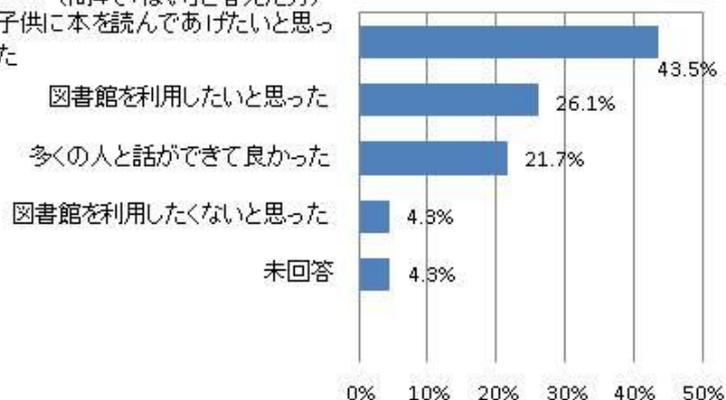
不参加の理由	割合	人数
BSを知らなかった	66.2%	49人
場所が分からない	6.8%	5人
時間が無かった	8.1%	6人
必要ないと思った	1.4%	1人
その他	2.7%	2人
未回答	14.9%	11人

その他: ※未記入につき不明

※グラフでは、ブックスタートをBSと表示しています

■ 問5 ブックスタートに参加して、どのように感じましたか？ (N=19 複数回答)

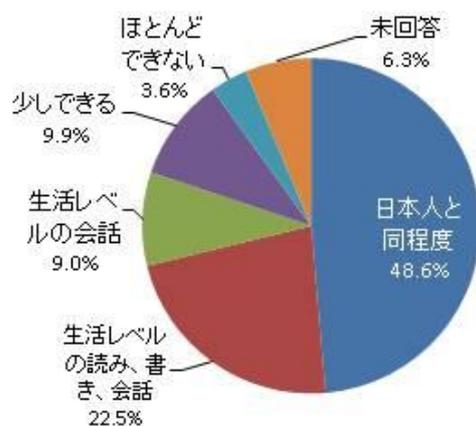
(問4で「はい」と答えた方)
 子供に本を読んであげたいと思っ
 た



図書館の印象は	割合	人数
子供に本を読んであげたいと思った	43.5%	10人
図書館を利用したいと思った	26.1%	6人
多くの人と話ができて良かった	21.7%	5人
図書館を利用したくないと思った	4.3%	1人
未回答	4.3%	1人

■ 問6 子供さんはどのくらい日本語ができますか？ (N=110 複数回答)

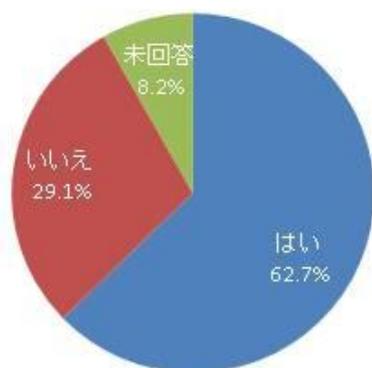
(問1で「いる」と回答した方)



子供の日本語レベル	割合	人数
日本人と同程度	48.6%	54人
生活レベルの読み、書き、会話	22.5%	25人
生活レベルの会話	9.0%	10人
少しできる	9.9%	11人
ほとんどできない	3.6%	4人
未回答	6.3%	7人

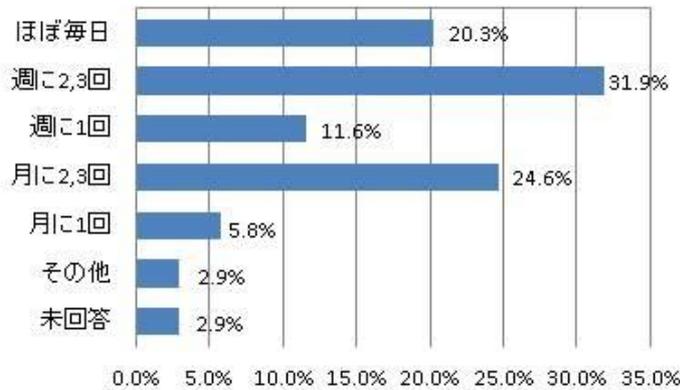
■ 問7 子供さんに絵本や本を読んでいますか？ (N=110 複数回答)

(問1で「いる」と回答した方)



読み聞かせの有無	割合	人数
はい	62.7%	69人
いいえ	29.1%	32人
未回答	8.2%	9人

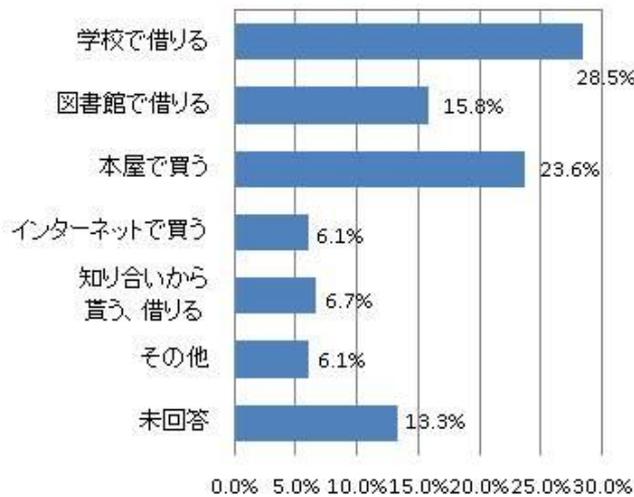
■ 問7(1) どのくらいの頻度で子供さんに本を読んでいますか？ (N=69 複数回答)
(問7で「はい」と回答した方)



読む頻度	割合	人数
ほぼ毎日	20.3%	14人
週に2,3回	31.9%	22人
週に1回	11.6%	8人
月に2,3回	24.6%	17人
月に1回	5.8%	4人
その他	2.9%	2人
未回答	2.9%	2人

その他: *未記入につき不明

■ 問7(2) 子供の本をどのように手に入れますか？ (N=110 複数回答)

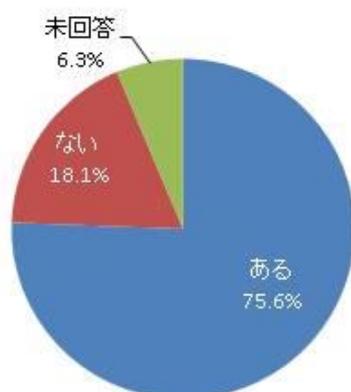


子供の本の入手方法	割合	人数
学校で借りる	28.5%	47人
図書館で借りる	15.8%	26人
本屋で買う	23.6%	39人
インターネットで購入	6.1%	10人
知り合いから貰う、借りる	6.7%	11人
その他	6.1%	10人
未回答	13.3%	22人

その他: 学校(で購入)
大学から

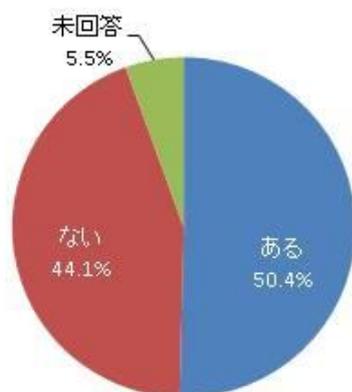
<図書館の利用について>

■ 問8 自分の国で図書館に行ったことがありますか？ (N=127)



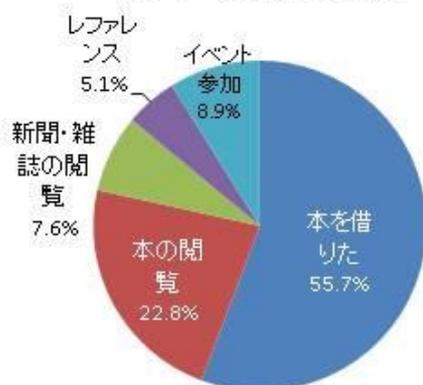
自国の図書館利用の有無	割合	人数
ある	75.6%	96人
ない	18.1%	23人
未回答	6.3%	8人

■ 問9 日本の図書館に行ったことがありますか？ (N=127)



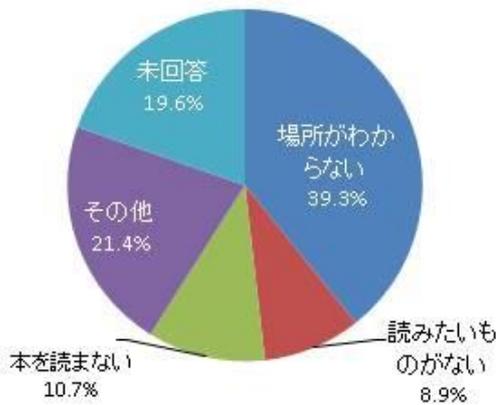
日本の図書館利用の有無	割合	人数
ある	50.4%	64人
ない	44.1%	56人
未回答	5.5%	7人

■ 問9(1) 図書館で何をしましたか？ (N=64 複数回答)
(問9で「ある」と回答した方)



利用の内容	割合	人数
本を借りた	55.7%	44人
本の閲覧	22.8%	18人
新聞・雑誌の閲覧	7.6%	6人
レファレンス	5.1%	4人
イベント参加	8.9%	7人

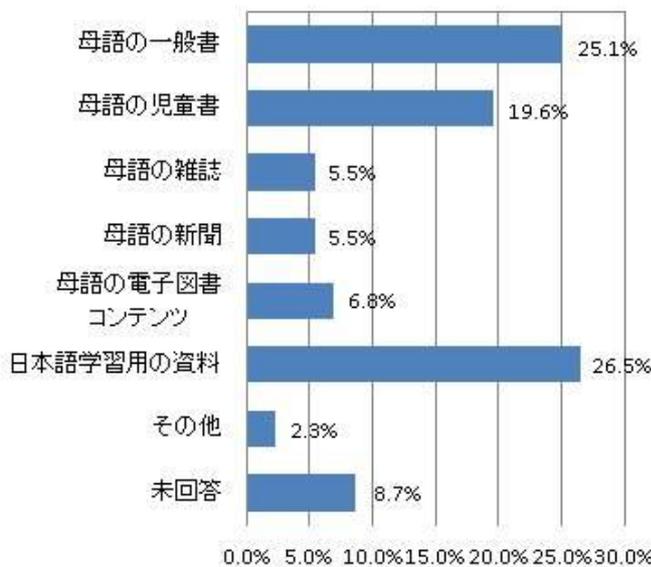
■ 問9(2) 図書館に行かない理由は何ですか？ (N=56 複数回答)
(問9で「ない」と回答した方)



行かない理由	割合	人数
場所がわからない	39.3%	22人
読みたいものがない	8.9%	5人
本を読まない	10.7%	6人
その他	21.4%	12人
未回答	19.6%	11人

その他:日本語がわからない
忙しい、時間が無い

■ 問10 日本の図書館にどのようなものがあったら良いですか？ (N=127 複数回答)



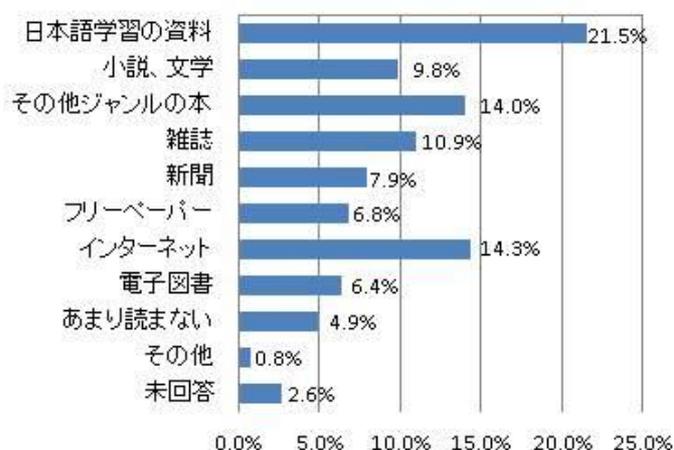
図書館に欲しいもの	割合	人数
母語の一般書	25.1%	55人
母語の児童書	19.6%	43人
母語の雑誌	5.5%	12人
母語の新聞	5.5%	12人
母語の電子図書コンテンツ	6.8%	15人
日本語学習用の資料	26.5%	58人
その他	2.3%	5人
未回答	8.7%	19人

その他:辞書

*ポルトガル語と日本語のふり仮名併記のもの
日本語学習教材

<読書の状況について>

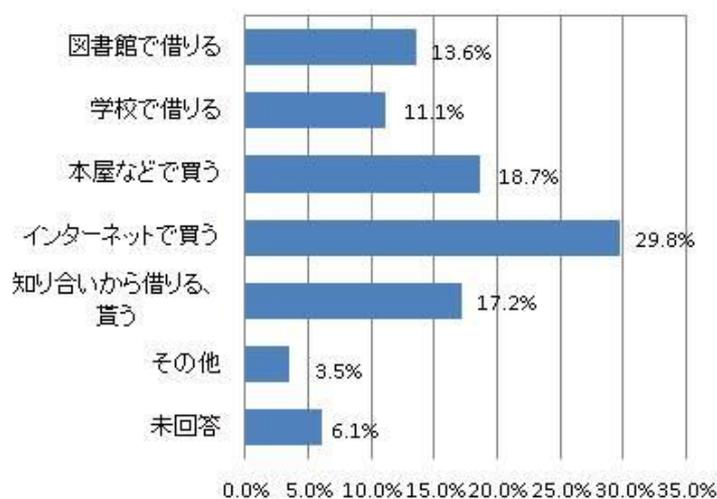
■ 問11 母語でどのような本や資料を読みますか？ (N=127 複数回答)



母語で読むもの	割合	人数
日本語学習の資料	21.5%	57人
小説、文学	9.8%	26人
その他ジャンルの本	14.0%	37人
雑誌	10.9%	29人
新聞	7.9%	21人
フリーペーパー	6.8%	18人
インターネット	14.3%	38人
電子図書	6.4%	17人
あまり読まない	4.9%	13人
その他	0.8%	2人
未回答	2.6%	7人

その他:マンガ、聖書

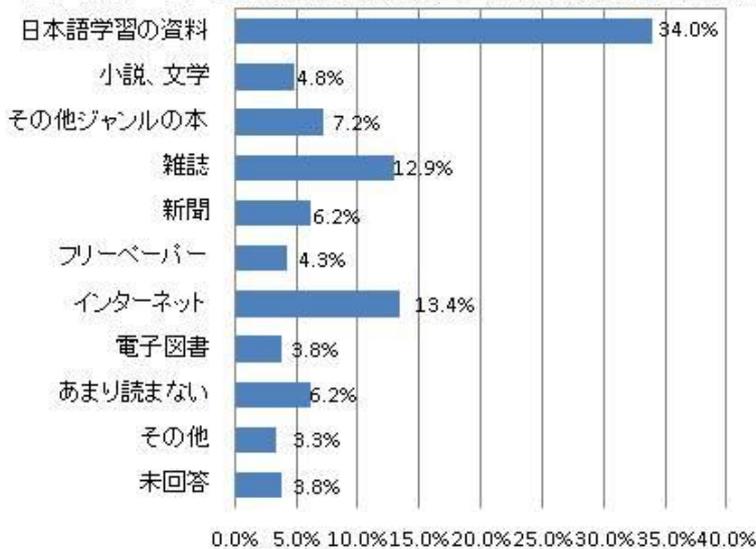
■ 問12 母語の本や資料はどうやって手に入れますか？ (N=127 複数回答)



母語資料の入手方法	割合	人数
図書館で借りる	13.6%	27人
学校で借りる	11.1%	22人
本屋などで買う	18.7%	37人
インターネットで買う	29.8%	59人
知り合いから借りる、貰う	17.2%	34人
その他	3.5%	7人
未回答	6.1%	12人

その他:教会

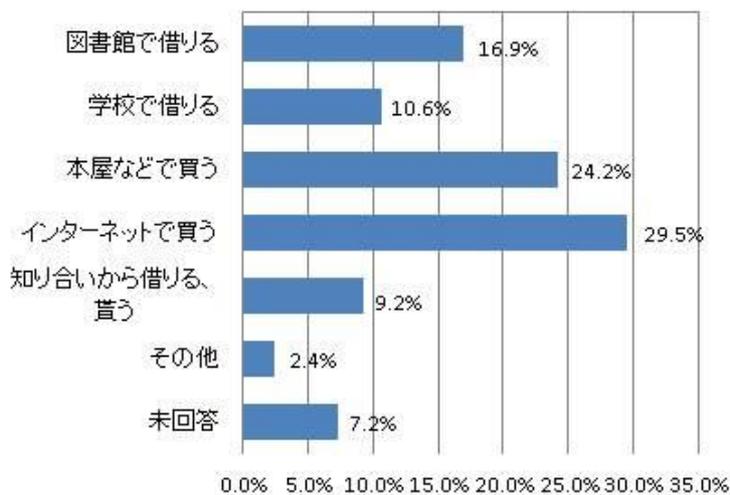
■ 問13 日本語でどのような本や資料を読みますか？ (N=127 複数回答)



日本語で読むもの	割合	人数
日本語学習の資料	34.0%	71人
小説、文学	4.8%	10人
その他ジャンルの本	7.2%	15人
雑誌	12.9%	27人
新聞	6.2%	13人
フリーペーパー	4.3%	9人
インターネット	13.4%	28人
電子図書	3.8%	8人
あまり読まない	6.2%	13人
その他	3.3%	7人
未回答	3.8%	8人

その他:マンガ、教会関連資料、子供の本

■ 問14 日本語の本や資料はどうやって手に入れますか？ (N=127 複数回答)



日本語資料の入手方法	割合	人数
図書館で借りる	16.9%	35人
学校で借りる	10.6%	22人
本屋などで買う	24.2%	50人
インターネットで買う	29.5%	61人
知り合いから借りる、買う	9.2%	19人
その他	2.4%	5人
未回答	7.2%	15人

その他: *未記入につき不明

■ 問15 1年間に何冊くらい本を読みますか？ (N=127)



年間読書冊数	割合	人数
0冊	17.3%	22人
1~5冊	52.8%	67人
6~10冊	9.4%	12人
11~15冊	5.5%	7人
16~20冊	2.4%	3人
21冊~	9.4%	12人
未回答	3.1%	4人

<電子図書について>

■ 問16 「はままつ電子図書」を知っていますか？
(N=127)



知っていますか？	割合	人数
はい	15.0%	19人
いいえ	80.3%	102人
未回答	4.7%	6人

■ 問17 「はままつ電子図書」を使ったことがありますか？
(N=127)



使ったことがありますか？	割合	人数
はい	7.1%	9人
いいえ	85.8%	109人
未回答	7.1%	9人

■ 問18 「はままつ電子図書」をどの程度使っていますか？または使いましたか？
(N=10) (問17で「はい」と回答した方)



使用頻度	割合	人数
毎日	0.0%	0人
2,3回/週	30.0%	3人
2,3回/月	10.0%	1人
その他	50.0%	5人
未回答	10.0%	1人

その他: *未記入につき不明

■ 問19 「はままつ電子図書」を使いたいですか？
(N=127)



使いたいか？	割合	人数
はい	74.8%	95人
いいえ	16.5%	21人
未回答	8.7%	11人

令和2年度浜松市立図書館「特別な支援を要する子供たちの読書活動」 についてのアンケート調査結果の概要

1 調査目的

浜松市内の特別支援学校に勤務する教職員を対象に、担当している児童・生徒の読書や読書環境について調査を行い「第3次浜松市子供読書活動推進計画」策定における参考とする

2 調査実施概要

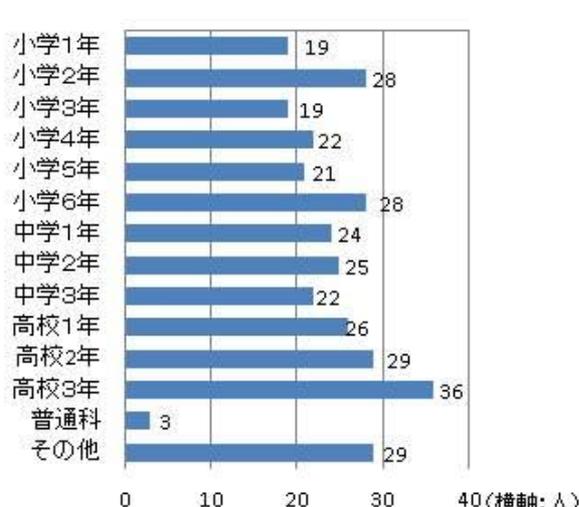
(1) 調査地域および対象

浜松市内の特別支援学校に勤務する教職員 計256人

(2) 調査方法 各学校宛て質問紙の配布、回収

(3) 調査期間 令和2年5月～6月

■ 回答者の担当している児童・生徒の学年 (N=256 複数回答)



担当学年	割合	人数
小学1年	5.7%	19人
小学2年	8.5%	28人
小学3年	5.7%	19人
小学4年	6.6%	22人
小学5年	6.3%	21人
小学6年	8.5%	28人
中学1年	7.3%	24人
中学2年	7.6%	25人
中学3年	6.6%	22人
高校1年	7.9%	26人
高校2年	8.8%	29人
高校3年	10.9%	36人
普通科	0.9%	3人
その他	8.8%	29人

■ その他回答
・成人・専攻科・学部フリー
・級外・養護教諭

■ 回答者の担当している児童・生徒の障がいの種類 (N=256 複数回答)



障がいの種類	割合	人数
視覚	12.4%	47人
聴覚	10.3%	39人
知的	46.6%	177人
肢体	13.9%	53人
病弱・虚弱	13.4%	51人
その他	3.4%	13人

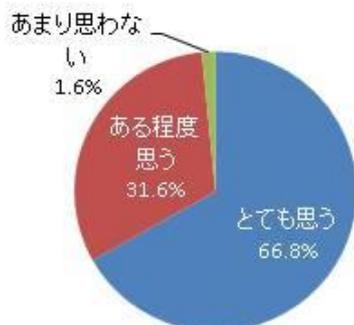
■ その他回答
・自閉症・学習障がい・発達障がい
・AD(注意欠陥)・情緒障がい
・アスペルガー症候群
・ディスレクシア
・デュシェンヌ型筋ジストロフィー

※比率はすべて百分率(パーセント)で表し、小数点以下第2位を四捨五入しています。このため、比率の合計が100%にならない場合があります。

<対象となる児童・生徒の読書について>

■問1 子供たちの成長、発達にとって、読書が必要だと思いますか？

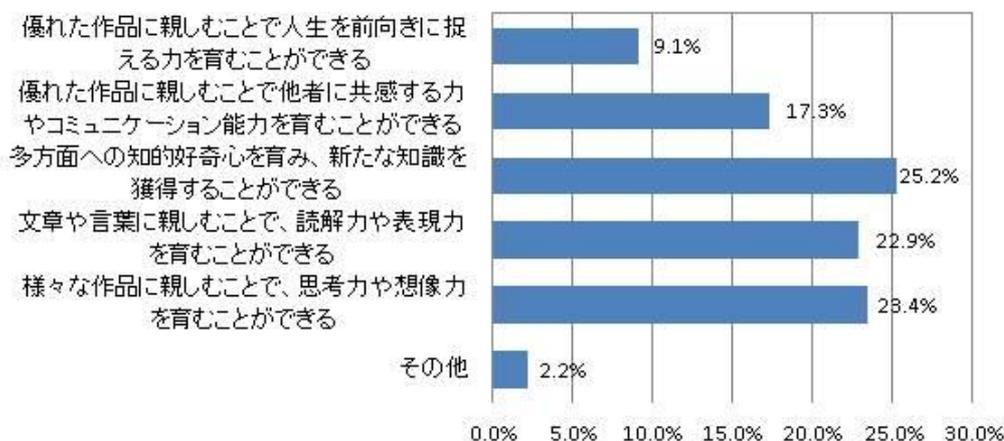
(N=256)



子供の成長に読書は大切か？	割合	人数
とても思う	66.8%	171人
ある程度思う	31.6%	81人
あまり思わない	1.6%	4人
そうは思わない	0.0%	0人

■問2 どのような点で、読書が必要だと思いますか？ (N=252 複数回答)

(問1で「とても思う」「ある程度思う」と回答した方)



読書が大切な理由	割合	人数
優れた作品に親しむことで人生を前向きに捉える力を育むことができる	9.1%	71人
優れた作品に親しむことで他者に共感する力やコミュニケーション能力を育むことができる	17.3%	135人
多方面への知的好奇心を育み、新たな知識を獲得することができる	25.2%	197人
文章や言葉に親しむことで、読解力や表現力を育むことができる	22.9%	179人
様々な作品に親しむことで、思考力や想像力を育むことができる	23.4%	183人
その他	2.2%	17人

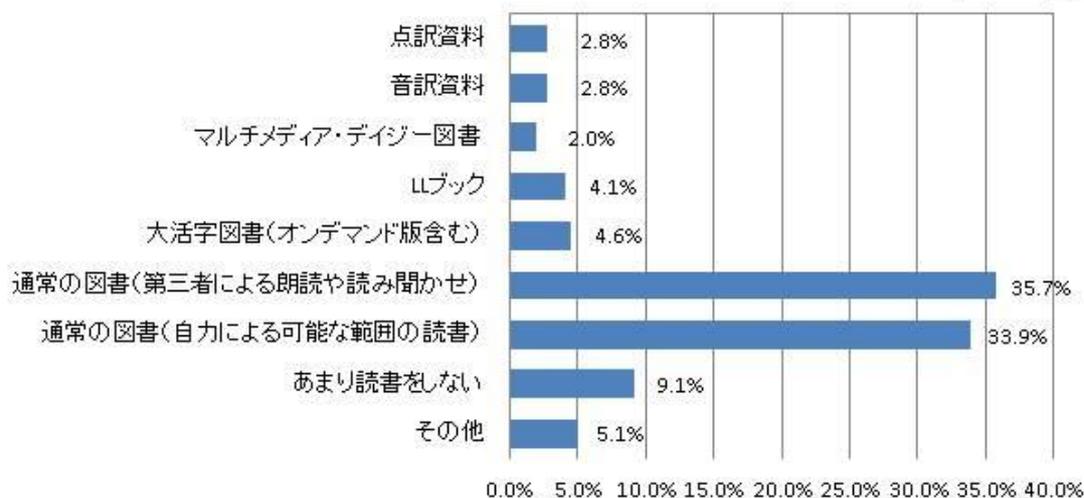
■その他回答

- ・読み手との信頼関係・余暇の充実・心理的安定
- ・リラクゼーション・注視する力や聞く力を養う
- ・本とともに過ごす時間そのものが貴重
- ・コミュニケーション力を養う・学習用
- ・美術作品に触れる機会(絵本)

- 読書が必要だと回答した割合は、98%を超えています。
- 通常の読書が困難な子であっても、読書はその子の成長にとって大切であると多くの教師が考えている結果となりました。
- 必要と思う理由としては「多方面への知的好奇心を育み、新たな知識を獲得することができる」の回答が最も多く、「様々な作品に親しむことで、思考力や想像力を育むことができる」「文章や言葉に親しむことで、読解力や表現力を育むことができる」も、多く選ばれています。

■ 問3 現在、子供たちにどのような資料(形態)で読書指導を行っていますか？

(N=256 複数回答)



読書指導に用いる資料形態	割合	人数
点訳資料	2.8%	11人
音訳資料	2.8%	11人
マルチメディア・デージー図書	2.0%	8人
LLブック	4.1%	16人
大活字図書(オンデマンド版含む)	4.6%	18人
通常の図書(第三者による朗読や読み聞かせ)	35.7%	141人
通常の図書(自力による可能な範囲の読書)	33.9%	134人
あまり読書をしない	9.1%	36人
その他	5.1%	20人

■ その他回答

- ・拡大読書器・大型絵本・ICT機器利用
- ・おすすめ本の紹介

■ 問4 現在の読書指導環境に満足していますか？ (N=256)



読書指導環境に対する満足度	割合	人数
満足	30.2%	76人
どちらかと言えば満足	41.3%	104人
どちらかと言えば不満	27.0%	68人
不満	1.6%	4人
未回答	1.6%	4人

■ 問5 子供たちがより読書に親しむために、どのような環境や取り組みが必要だと思いますか？

(N=256 複数回答)



読書に親しむために必要な環境や取組	割合	人数
家庭での働きかけ	21.0%	88人
図書館の整備	10.7%	45人
学校等の読書環境の整備	36.0%	151人
必要な資料が容易に使用できる仕組み	11.9%	50人
保護者への専門機関からの情報提供	2.9%	12人
保護者への学校からの情報提供	10.3%	43人
保護者への子育てサークルからの情報提供	4.5%	19人
その他	2.6%	11人

■ その他回答

- ・タブレットなどICT環境
- ・予算や時間的な余裕
- ・個々の状況に応じた資料の充実

浜松市立図書館の所在地と連絡先

NO.	図書館名	郵便番号	所在地	電話番号
1	中央図書館	430-0947	中区松城町 214-21	053-456-0234
2	同 駅前分室	430-0927	中区旭町 12-1	053-458-2180
3	城北図書館	432-8003	中区和地山二丁目 37-2	053-474-1725
4	南図書館	432-8033	中区海老塚二丁目 25-17	053-452-1655
5	西図書館	432-8038	中区西伊場町 52-17	053-456-3379
6	積志図書館	431-3114	東区積志町 1819	053-435-0744
7	東図書館	435-0015	東区子安町 309-1	053-464-2081
8	北図書館	433-8114	中区葵東一丁目 15-1	053-436-6646
9	南陽図書館	430-0825	南区下江町 462	053-426-1000
10	可新図書館	432-8063	南区小沢渡町 1142-1	053-449-1001
11	はまゆう図書館	431-1112	西区大人見町 1750-394	053-482-1127
12	浜北図書館	434-0038	浜北区貴布祢 3000	053-586-8200
13	天竜図書館	431-3314	天竜区二俣町二俣 184-32	053-926-1245
14	舞阪図書館	431-0211	西区舞阪町舞阪 2668-56	053-592-7000
15	雄踏図書館	431-0102	西区雄踏町宇布見 8287	053-596-5522
16	細江図書館	431-1305	北区細江町気賀 4579-1	053-527-0185
17	引佐図書館	431-2212	北区引佐町井伊谷 610-2	053-542-2118
18	三ヶ日図書館	431-1404	北区三ヶ日町宇志 799-1	053-528-0151
19	春野図書館	437-0604	天竜区春野町宮川 1327-1	053-989-1119
20	佐久間図書館	431-3901	天竜区佐久間町佐久間 2431-3	053-965-1682
21	水窪図書館	431-4101	天竜区水窪町奥領家 3274-1	053-982-0013
22	龍山図書館	431-3801	天竜区龍山町瀬尻 982-2	053-968-0331
23	流通元町図書館	435-0007	東区流通元町 20-2	053-422-0202
24	都田図書館	431-2102	北区都田町 8751-2	053-428-0011

令和2年度 浜松市子ども読書活動推進会議委員等名簿

No.	氏名	役職等	備考
1	兪 嶸	静岡文化芸術大学文化政策学部准教授	学識経験者
2	河合 亮子	浜松市社会教育委員	社会教育関係
3	中村 幸一	浜松市PTA連絡協議会 家庭教育委員会委員長	PTA関係
4	石野 里江	浜松児童福祉園 ルンビニープレスクール園長	子供教育関係
5	袴田 和徳	浜松市教育委員会 教育施設課長	行政
6	野秋 愛美	浜松市教育委員会 指導課長	行政
7	和田 恵子	浜松市立大平台小学校長	学校関係
8	高瀬 理子	浜松市立中央図書館長	行政
事務局			
1	山本 裕司	指導課 指導主事	
2	鈴木 早苗	中央図書館サービスグループ長	
3	島野 陽子	中央図書館サービスグループ主任	
4	松原祐記子	中央図書館 指導主事	

令和3年度 浜松市子ども読書活動推進会議委員等名簿

No.	氏名	役職等	備考
1	兪 嶸	静岡文化芸術大学文化政策学部教授	学識経験者
2	河合 亮子	浜松市社会教育委員	社会教育関係
3	岡田 典子	浜松市PTA連絡協議会 家庭教育委員会副委員長	PTA関係
4	山田 正典	浜松市立万斛幼稚園長	子供教育関係
5	山本 治之	浜松市教育委員会 学校教育部参事兼教育施設課長	行政
6	石野 政史	浜松市教育委員会 指導課長	行政
7	和田 恵子	浜松市立大平台小学校長	学校関係
8	高瀬 理子	浜松市立中央図書館長	行政
事務局			
1	松本真美子	指導課 指導主事	
2	鈴木 早苗	中央図書館サービスグループ長	
3	島野 陽子	中央図書館サービスグループ主任	
4	松原祐記子	中央図書館 指導主事	

第3次浜松市子供読書活動推進計画

発行者 浜松市立中央図書館

〒430-0947 浜松市中区松城町 214-21

TEL : 053-456-0234 FAX : 053-453-2324

E-mail chuo@city.hamamatsu.shizuoka.jp

ホームページ URL <http://www.lib-city-hamamatsu.jp/> →

